

●上卷

丹後国加佐郡旧語集

于茲丹後順覽記・宮津領記古跡有書、加佐郡正敷有神代遺跡殊更思書記事有心力不足、或時傍人一書携来郷中寺社旧所荒増也、種是而亦先年本大莊屋書上、寺社書付而尋覓、寺院宮社録記伝来并郷民老人伝説、予六十年集見聞、遠村辺土無尋便記、神名寺号而御城内沙汰、京極家顕替御代品畢後、人副書所希也

享保十九甲寅年中夏嚙筆翌年中春終私曰朝代大川神社神号之説其外社地或寺院境内坪数本尊脇立方丈客殿庫裏鐘楼山門惣門間数亦由来郷中村々之高免引御用捨高小祠勸請古昔當時之違有之分寺々山号開基建立本寺之開基有増補卷之末小物成継物諸運上郡方取立運上田地売買御領分高万定引川成起引并御介抱之次第其外年貢等當時記之

作者 磯田俊次

増補 浜田正憲

旧事記云丹後ハ人王四十三代元明天皇和銅六癸丑年丹波国五郡ヲ割テ丹後国ヲ置ト云云国名風土記曰丹後篠村東大江山之麓ニ大成池有 昔彼池ニ大蛇住テ近辺往来之人ヲ多ク害ス 或時優成女往来ノ稀成

ニ彼池傍ヲ通りケルニ大蛇是ヲ見付彼女追詰テ一呑ニス 其夫是ヲ知テ甚憤リ身ヲ固メ池エ馳行池ニ向テ大ニ叫フ 時ニ大蛇忽然ト現出彼男ト暫相戦ト云ヘ共又此男ヲ一呑ニス 此男モ兼テ心得タルニヤ蛇ノ腹中ニテ短刀ヲ拔大蛇ノ腹中ヲ寸々ニ切割大蛇不怵苦狂大ニ血ヲ吐彼男ヲモ生ナカラ吐出ス 池水赤丹ト逆卷凡其辺朱ニ成因茲此所ヲ丹波国ト云トカヤ其東之際ヲハ大江山ト云 彼男ノ従者共主ノ跡ヲ尋来ルニ主人ハ蛇ノ口ヨリ出タレハ朱ニ成リタリ 従者子細ヲ尋ルニ爾々ノ由ヲ語ル従者主人ノ蘇生ヲ悦ヒ介抱シテ連レ帰ルニ爰ヲ以此所ヲ生野ト名付ルニヤ

丹後ト云事ハ日本ハ南ヲ前トシ北ヲ後トス丹後ハ丹波之北ナレハ爾云

丹後五郡

丹後国絵図ニ云

加佐郡 高三万七千三百八拾三石七斗  
村数百三十四ヶ所 小村拾三ヶ所

与謝郡 高三万四千四百六拾二石四斗  
村数五十二ヶ所 小村四十四ヶ所

竹野郡 高壹万九千五百六十三石六升  
村数三十七ヶ所 小村二十九ヶ所

熊野郡 高壹万五千五百四十六石三斗六升  
村数四十一ヶ所 小村十一ヶ所

中郡 (丹波郡トモ)

高壹万九千二百十七石七斗七升  
村数二十八ヶ所 小村九ヶ所

惣高拾貳万三千百七十五石六斗四升

惣村数二百九拾二ヶ所 小村百六ヶ所

加佐郡百三十四ヶ村之内拾二ヶ村他領

外夏間村<宮津/田辺>分ル<内宮村/毛原村/北原村/  
二股村/小原田村/天田内村/

橋谷村／仏性寺村／河守村／関村 トモ>

合九ヶ村宮津領  
波美村 蓼原村 公莊村  
以上三ヶ所 御代官所  
御城

三河風土記云

慶長九甲辰年十一月十八日諸大名恩賞地被行

豊前国小倉 豊後之国内臼杵

知行高三拾九万九千石余

本領丹後田辺拾万石其外加増ニテ所替

細川兵部大輔藤孝 幽齋

同 越中守忠興 三齋

右同時所替

後寛永二乙丑年

丹後国田辺 京極高知侯同国宮津城江移ラ  
ル

知行高拾二万三千石余

本領信濃国飯田八万石其外加増ニテ所替

京極丹後守高知

嫡

同 丹後守高広 安知

高広ノ嫡

同 丹後守

高知ノ二男

同 修理太夫高三

嫡

同 飛驒守高直

同 伊勢守

伝記

丹後守高知 拾二万三千石之内

七万五千石 宮津 嫡 丹後守高広

分知

三万五千石 田辺 修理太夫高三

同

壹万二千石 峰山 主膳正高通

高広之嫡丹後守代寛永九酉年於江戸御改易南部

大善亮利幹侯江御預ケ御扶持方三千俵供侍拾人

御息近江守藤堂和泉守高敏江御預ケ

寛文八年五月廿一日 所替被仰付

三万五千石但馬国豊岡 京極伊勢守高盛

玉露号叢云同日引料二千兩拝借就病氣息男土肥

之助江被仰付

良園院様寛文八戊申年六月廿三日三千石御加増

田辺御城御拝領同年八月十五日御城請取同九年乙酉

年六月七日 御入部

覺樹院様

延宝五丁巳年六月御入部

徳樹院様

元禄七甲戌年 御入部

当城ハ細川藤孝侯繩張之由中門ヲ南東ノ方円満  
寺村田島也 西北ノ塩入の浪を築立大手本町辺  
最初ニ築平野屋町角ノ家山本又左衛門ト云者  
町家立初之由<後丹波屋嘉右衛門と成丹波屋嘉右衛門父ノ常々細川幽斎侯御  
代之者之由申伝有以上>

<嘉右衛ノ門伝説>城ノ南東ハ深き沼ニ而丹波川池内川伊佐津  
川堤を築両川を一流にして沼江の流を留惣堀を附  
られし由 伊佐津村ハ境谷村一在成し村中を割川  
を堀天神山の出先八間切川筋立る由 伊佐津村の  
在名其筋たるよし

二ツ橋前代板橋ニ而高欄有し先御代及破損掛直  
し其時方土橋ニ成

土橋下の松繩手之通に有洪水に流れ其後不掛  
円満寺村地主卯ノ宮と云伝ニノ丸北方二軒目広  
瀬代主税に被下土居之上に祠有り祭る日有之主税  
代円満寺村之末流呼れし由

老人伝説

船着外之御蔵屋舗に修理太夫高三侯御縁家之由  
津田藤十郎と云人居住之处或時狐奇怪をなし踊さ  
まノ怪事有之 其節丹波屋常二六才の時踊見物  
に行たれ共恐れて内取不入高橋ニ而踊声を聞たると  
申伝ふ 百拾年斗になる今寛政九年是に六十三年  
を増す化物之草紙として一書有り是ハ永田氏祖  
父何某の述作のよし 此書にハ沢田将監とあり併  
是又本名ニ而ハなし名を替書置し由藤十郎狐の名  
と見へたり 伊織とも云伝年久しく不分明或説に  
伊織ハ二代目と書たり右書へ朱を書たしたる仁あり  
此狐後因州に行浮木禅功と云たる由

御城中内外京極之時と御当家之替

一 矢倉門高堀一ヶ所もなし 石垣所々崩れ三ノ  
丸向ふの石垣東ノ方南ノ方三四ヶ所七八間程宛崩  
有之 本丸脇西ノ方ノ門黒鉄門と云よし宮津へ引  
取玄関の門に立今以有之鉄門ひと打丈夫成門なり  
当城根城成故安知御祢たミ石垣を崩し門も引  
取らるゝ由伝説也 玄関前の門者某御使者罷越候  
時見及候

一 御初入已後大手中門・南門・大内門・船着門不残竹  
門成りし五ヶ所とも櫓門并外曲輪<前ハ蓮池ノ曲輪ト云>中門・南  
門・大内四ヶ所冠木門御立石垣ノ崩れ築直嶋又右エ  
門・寺井三右衛門・安田市郎兵衛・中嶋次太夫其外役人  
奉行

一 時之鐘中門ノ小屋舗に有り 座舗二間勝手も  
少し有り其上に矢倉有り鐘にて時を撞く

御入部以後大鼓被仰付此屋敷武具預り服部安兵  
衛と云者中小姓格ニ而居住武具ハ門櫓に入置表向  
小長屋有小役人居鐘に銘有別に記す 雲門寺作之  
由

一 大手当番之物頭中門番所上之間ニ泊リ斗勤大

手ハ足輕斗リ昼相勤

一 足輕長屋所々に二三軒四五軒宛在之後京口宮津口に長屋立

一 京極家にてハ三ノ丸伊庭右京之進屋敷也 勝手の方畳まれ御小座敷立御庭に御鞆掛御庭籠立玄關の北方に御風呂屋立南の方御鷹部屋長屋立長屋西の方御馬見所に成る

一 小早御舟拾貳艇立若州にて出来水主拾三人小頭増茂又兵衛被召抱小花甚太夫江御預け

一 二ノ丸矢場出来

一 御居間南御土蔵前四本掛り馬場被仰付

一 東道往還成りし御停止

御初入以後家作を致衆中大概覺之分記此外も在之哉不詳

一 嶋又右衛門 座敷長屋立

一 中嶋次太夫 座敷立

一 高田孫左衛門 座敷立直

一 上田次郎兵衛 不殘立直町家ノ地買添

一 井上武兵衛 座敷立

一 尾崎十郎右エ門 長屋

一 宮原伝内 長屋座敷立

一 岩崎嘉兵衛 勝手立

一 原八左衛門 座敷立

一 水谷与助 座敷立

一 幸山金太夫 不殘立直

一 宮原弥惣左衛門 勝手立

一 恒川九兵衛 勝手立直

一 小田垣源五兵衛 座敷勝手

一 武節文太夫 不殘立直

一 永井与惣右エ門 勝手

一 磯田兵右エ門 不殘立直

一 藤井庄右衛門 町屋敷立

一 坪山勘右衛門 座敷勝手立直

一 御入部前大手番所広く御普請鉄砲拾挺弓五挺長柄拾筋三ッ道具天水桶百屏幕張り物頭老人給人老人惣領置老人三人宛足輕五人宛

昼夜物頭給人鎗為持勝手の方に三ッ道具を持鎗立置足輕者不寝番勤

一 大手の向に職人小家有り不殘職人町江引馬塀に成る

一 武具預り服部安兵衛拝髮（領カ）金午（ママ）一同に御暇安兵衛居候屋鋪不殘立会所に成る

一 東道京極代往還ニ而若狭街道と云東道と被改

一 本ノ屋敷最初本多八右衛門に被下後西尾六左衛門に被下此屋敷三間斗道に成る 残り長屋被立東屋敷と被改新道と云 又中蔵東の方長屋を切船着江の道に被仰付

一 京極家ニ而石東源五兵衛屋敷跡長屋に小役人居北の端御預ケ人飯田五郎左衛門殿被差押飯田

- 殿御免後不殘長屋立南屋敷と云  
 玉露叢伝 延宝三乙卯年六月廿八日  
 大猷院様御年忌日光御門主依御願御赦免左之通
- 一 谷出羽守江御預 宮本数馬
  - 一 松平監物 子主税ハ被召出よし
  - 一 牧野因幡守へ御預 飯田五郎左衛門
  - 一 父江御預 三浦小十郎
  - 一 浅野又三郎へ御預 山鹿甚五左衛門
  - 一 泰元庵 御目見被仰付由
  - 一 京都追放御預 宇津宮由的（カ）
  - 一 佐州流罪 三雲縫殿
  - 一 大嶋流罪 笹山新八郎但江戸住居山科長庵  
 右之外江戸町人又所々追放輩十四人御免に  
 て候
- 一 三ノ丸御舞台立御鷹部屋南屋鋪江引其節殺生  
 御停止ニ付御鷹野止ミ鷹匠小役人等に被仰付
  - 一 東道森本屋敷の並最初ハ三軒ニ而東の端屋敷  
 三宅七郎右衛門に被下 理右衛門隠居以後七郎  
 左衛門居屋敷被召上依て理右衛門居屋敷の方ニ  
 而坪数差上度之旨依願其通被仰付跡井上源太夫  
 江被下 古家豊不殘新敷普請致花山屋敷ハ御田  
 中半ニ其後中江伊兵衛添屋敷に被下
  - 一 船着裏町北方ニ軒目庄門勘左衛門隣同五兵衛  
 部屋住被下勘左衛門隠居已後五兵衛移替跡屋敷  
 上ル以後御客屋敷に成
  - 一 大内御門北の裏町ニ軒目寺田三郎左衛門北の  
 行当屋敷江替る 寺田跡ハ十河玄慶に被下候所  
 及大破居住難仕由町宅預依之寺田も玄慶も不届  
 ニ思召閉門被仰付 三郎左衛門知行被召上後御  
 免本地被下置玄慶ハ破損料可出之由被仰付銀貳  
 貫目差上其身は御暇被下其銀を以屋敷不替新に  
 普請被仰付三宅七郎左衛門奉行諸色貳貫目に而  
 相済由
  - 一 大手脇矢倉建高塀并所々石垣上石不殘直被仰  
 付幸山金兵衛・中嶋次太夫其外役人山田忠右エ門・  
 渡辺五郎兵衛外小人勤る
  - 一 土居所々小松植る中山権左衛門奉行
  - 一 大内二ツ橋北の松啜迄土居下馬場ニ而両方松  
 桜有桜の馬場と云 此所新規に組長屋被仰付新  
 組一組弓組寺井三右衛門御預馬場末ハ田地ニ成  
 馬場ハ築地ニ而出来る
  - 一 伊佐津川洪水之節堤切砂入出来ニ付東の土居  
 ニ水越被仰付場所見分有諸役人吟味之上御工夫  
 二重土居石を疊八合水ニ而越候積其後洪水水越  
 之处損毛御吟味僅成由
  - 一 倉谷村天神前通東ノ方継木畑と云栗・柿・梨子ひ  
 しと植在之内に小屋敷有り京極家水原伝兵衛と  
 云歩行格之者居たる由 御入部後仕立物師中村  
 庄左衛門同清助父子被差置後畑に成百姓に御預

- 一 町七畝あり
- 一 二橋東の詰北ノ方に屋敷有高橋弥兵衛に被下  
其子源次郎代御暇以後矢場に被仰付
- 一 御領内所々山々年々小松植る大庄屋一組千本  
づつ
- 一 安久築地に被仰付納所蔵建
- 一 二ノ丸屋敷八軒有南端京極家方附送り安立寺  
と云出家住<貞享年中病死塩に漬御注進輕御役人ノ江戸より御越見分之上本  
行寺ニ而葬>
- 一 北隣初安田十郎兵衛後長江新五兵衛後鱒江平  
左衛門元禄六年二軒一所に成南ノ明地共屋敷内  
に成鋪舞台御座敷被立渡辺五郎兵衛奉行勝手之  
方は古河内膳江被下
- 一 大内御門外北ノ方小役人小屋有之長屋立具足  
師弥兵衛と云者被召抱被差置細工場有弥兵衛病  
死後屋敷二軒に成
- 一 築地御蔵之辺を塩浜と云事御代々被掛御目塗  
師梅原久右衛門其子七郎右衛門日光御用ニ而多  
分金子をもふけ其後田辺江来り後々迄相残し候  
事取立由相願 播州流の塩を焼仕様ハ浪の磯辺  
汐強処を見立穴を堀汐を溜メ其水を汲焼釜は指  
渡五尺斗土にくり石を入ひらく固メ釜の大サ  
にへっついを拵不飽焼也焼止と釜崩れ濟少しの  
内塩焼しが色黒不宜由ニ而止たり 其後所を差  
して汐浜という
- 一 立会所屋敷二軒に被仰付中蔵の内江立会移太  
鼓櫓御広間北の方の土居ノ上に被移
- 一 原団之丞元屋敷二軒に成
- 一 二ノ丸御舞台畳まれ南ノ方小屋敷立杉本忠四  
郎へ被下
- 一 増山勘右衛門南隣最初富田六之丞居其後段々  
替後西ノ方小屋出来初ハ破損小屋に成後破損小  
屋中屋敷之内江引跡杉原養元被下
- 一 篠崎善太夫屋敷後宮沢作左衛門替其後破損小  
屋に成中屋敷ノ方江入江に成 東ノ出口ハ隣屋  
敷磯田只右衛門江添被下
- 一 太鼓櫓中蔵内江移  
右之外替事品多書残可在之御代々之事近頃之  
事ハ不能記  
御領内口々道法 壱里塚ハ大橋方の道法也  
京海道
- 一 引土橋方真倉迄 一里半六丁五間半
- 一 真倉境迄 二里六丁
- 若狭海道
- 一 二橋より白鳥峠迄 半里九丁五拾貳間
- 一 白鳥より市場迄 一里五丁八間
- 一 市場方吉坂迄 一里半一丁貳拾間
- 一 吉坂境迄 三里三拾一丁八間
- 宮津海道

- 一 福井御番所より大船峠迄 半里八丁五拾間
- 一 大船峠方長尾峠迄 式里半式丁三間

合三里拾丁五拾三間

河守海道

- 一 引土橋方真壁峠迄 一里五丁五十九間
- 一 真壁よりせばさこ迄 式里一丁四拾四間
- 一 せばさこ方金谷境迄 壹里半壹丁式拾壹間

合四里半九丁四間

御領内

大庄屋 八人

役馬 八疋

但一ヶ月大豆壹俵宛被下一ヶ年に京都迄壹疋  
式度宛役勤ル御初入寛文九年之帳面ニは在馬  
拾式疋有減少にや

郷中古来方九社明神と云

多力雄明神	京田村	笠水明神	公文名村
宮崎明神	喜多村	九社明神	吉田村
一ノ宮	真倉村	日原明神	女布村
胆吹明神	青井村	八幡宮	引土村
下森明神	女布村		

前々九社御旅所有本社五社明神ト有共不儘  
ニ付不記

延喜式云

丹後國中神社 六拾五社

加佐郡 拾壹ヶ所

奈具神社	伊知布西	弥加宜	倭文
高田	阿良須	大河	笑原
麻良田	三宅	日原	

与謝郡 二拾ヶ所

籠神社	弥力	布甲	阿知江
多田	矢田部	倭文	木積
杉末	大虫	物部	須代
宇豆貴	久理陀	宇良	阿知江沼江
三重	板列	吾野	小虫

丹波郡 九ヶ所

本ノ儘

昨岡 波弥 多久 名木 比沼麻奈為  
稻代 矢田 大宮壳 二坐大

竹野郡 拾四ヶ所

大宇賀	溝谷	網野	大野
生王部	深田部	癸拵	奈良

本ノ儘

久尔原 依遲 竹野 志布比  
床尾 壳布

熊野郡 拾壹ヶ所

熊野	伊豆志弥	丸田	衆良
神谷	聞部	意布伎	矢田
壳布	三嶋田	村岡	

町拾五町 古帳拾七町

<引土新町／今本行寺辺ヲ云> <嶋崎町／今手代町>  
本町 此町ニ初テ家を建シ山本又左衛門ト云<此所／号今>  
<ハ無／シ>此又左衛門ハ村上仙入末子生国丹波山本也  
地侍之由細川藤孝侯江勤田辺町代官勤 二代目  
又左衛門モ拾六歳ヲ役儀勤之由豊前小倉江御移  
右丹波屋常杉伝来京極高知侯御代モ町代官勤之  
細川幽齋侯御時ヲ家相統之者一人也依之是ヲ記  
置  
山本又左衛門 同又左衛門 <男子高知侯宮津江被／  
召出女子竹屋町絹屋／嘉右衛門妻>  
養子当時常杉  
西野三郎右衛門 <古来坂根修理旗下堺伊佐津／村郷土後細川藤孝侯ニ仕>  
<一／二> 惣領ト二男百性（ママ）成 <此名前再末ニ出ス／委曲其条下ニ記ス  
>

三 西野莊右衛門

四 西野嘉右衛門 田辺竹屋町ニ住ス絹屋嘉右衛門

養子 嘉右衛門 <後号常ニ実父越前朝倉家ニ／  
仕妻山本又左衛門娘生男子／彦右衛門>

二代目山本又左衛門病死相統之男子宮津ニ勤外  
ニ男子無之後家常ニ江跡式相統之儀を常ニ不同  
心幸世倅彦右衛門ハ又左衛門孫ナレハ此者可被  
致養子ト云 則彦右衛門致承知又左衛門家相統  
丹波屋嘉右衛門ト改ム 其後竹屋町之家ヲ又左  
衛門後家江渡シ常ニモ本町江居替

西野三郎右衛門三男

西野莊右衛門

細川藤孝侯ヲ慕ヒ豊前小倉へ弟嘉右衛門同道ニ  
而百石被下置御母公ニ勤 其後御息女江附五条  
大納言殿へ御婚礼御供二百石被下置京都江御供  
相勤以後嘉右衛門ハ田辺江来竹屋町ニ住ス 莊  
右衛門ハ奥方御不幸ニ付御暇取京都ニ住ス 嘉  
右衛門田辺ニ居無実子常ニ養子トシテ相統

惣領 莊右衛門

子 与市郎

松平越中守殿方三十扶持屋敷代五百目宛被下置  
京都御用達勤世倅代御暇取諸司代与力ト成

柳下彦太夫

一 本町行当今ノ嘉右衛門家に猪子五兵衛ト云富  
有人在先祖京極修理太夫高三侯御母公従弟ノ由

猪子長兵衛 京極家家老

猪子五兵衛 沼田伝左衛門 右同断

猪子五兵衛

五兵衛町代官勤世倅伝五郎ト云御替之節拾四  
五歳成し身上衰京極江上り後出家之由風聞有

一 同町今之掛屋佐左衛門家ニ橘屋市三郎ト云御  
入部之節拾四五歳計ニ而酒屋成し父ハ上野与惣  
左衛門とて由緒有者之由大分限者之由其子市三  
郎身上衰後京江上り已後松平新太郎殿江被召出  
之由喧嘩ニ而果たると風聞有不詳 逸見与一左



衛門近親之由委細不聞追々承合可書入

神明宮 正五九月十五日ヨリ十六日祭  
前 宮内

大鼓斗

巫持 今 式部

天照皇太神ヲ勸請ス紺屋町中程ニ有 此宮元来  
伯山ト云山伏守護ニテ浄土寺門前ヨリ道有シ由  
後巫ノ持ニ成宮内巫迄四代之由道モ以前トハ付  
替ル成 今寛政十戊午年写之比ハ宮内総式部  
也<清水姓ヲノ名乗>

朝代大明神 本社二間四方 宮地三百拾五坪

小宮八社 <今爰ニ不委記ノ末ノ条ニ記ス> <享保十九甲寅年頃ハ駿ノ  
守直高巫ハ宮内代也>

拜殿 四間 三間

長床 五間 三間 神職 玖津見宅 三間八間

華表 一丈余 巫 式部 清水氏也

夫当社ハ人王四十四代天武天皇御宇<御在位ノ十四年>白鳳

元年九月三日御鎮座本社淡路国日ノ若宮<伊弉諾ノ尊ヲ祭>

<奉ルナリ御讓位之後日之若宮ト称ノ奉也江州多賀大明神ト同社ナリ>御祭礼九  
月九日

<初メハ三ノ日ノ由>神事之日大内町二橋之橋詰ニ御輿ヲ

鎮メ神樂祝ヲ奏シ諸芸ヲ勤假ノ行宮トス 享保

八癸卯年神職玖津見駿河守直高依願橋詰ノ家ヲ

調御旅所ヲ設ケ九月朔日ヲ燈明ヲ立ル 京極家

ハ外曲輪ヲ渡リシ御家御在城以後二ノ丸ヲ渡リ

於大番所祭礼御見物

御輿暫御棧鋪前ニ鎮居神職祭式ノ事有

御祭礼年々賑々敷相成

小宮八社 享和元辛酉年二月竜蛇社勸請以来九社

松尾大明神 <大酒解ノ命ノ子酒解ノ命> 二坐合テ一社

大国天社 大己貴尊ヲ祭奉ル

祇園牛頭天王社 素戔尊ヲ祭奉ル

稻荷大明神 少彦名命ヲ祭奉ル

多賀大明神 <伊弉諾尊ヲ祭奉ルノ

朝代大明神御一体ノ 二坐相殿

恵比寿神社 事代主命ヲ祭奉ル>

職人祖神 <手置帆負ノ命彦狭知命ノヲ祭奉ルニ神一坐ニ祭ル>

竜蛇神 <享和元辛酉年二月從雲州大社勸請本社ノ之左西北之隅山ヲ平均南向  
之社是ナリ>

庚申堂 西町ニ有 山伏 宝性院持

縁起説

庚申宝殿創基 後光明院御宇正保三丙戌年此

府之使君飛驒守高直侯なり 爰修験者長月法

印以願伝験容貨資建立正保三年十一月六日智

恩院円隆寺法印快遍仲間帳供養 其後及大破

四世宝性真照法印再起貞享五戊辰年三月四

日始五月朔日棟上六月朔日知恩院良榮上人安

鎮之供養下略 寛政十一庚申年再建立日本庚

申之始ハ人王四拾貳代文武天皇大宝元辛丑年  
正月七日庚申之日申刻童子撰州天王寺ニ降民  
部僧都ニ告曰我帝釈之天使也祭庚申者百福万  
祥ニ到らんと 夫ハ庚申を祭由

先年天王寺庚申堂ニ而人々語りしハ三十里  
四方外勸進不成由 其後參宮せし時内宮  
の外田中の細道に小塚有り四角成石を立庚  
申と切付有りし三十里ハ虚説也

紺屋町南の端東側の所明智日向守光秀屋敷跡也  
と云伝なり 山伏法釈家の辺也

浄土宗 見樹寺 海岸寺 京都白川 知恩院ニ属 <境内七百坪／其外山林有>

御菩提所 知行百石 当時派下 無常院  
堂前善心觀応之額 先御代被為掛

本尊 阿弥陀 慧心作

客殿 九間半ニ九間 書院 七間ニ二間

方丈 五間ニ貳間半 庫裏 十二間ニ四間

鐘楼 二間ニ四方 門 二間ニ一間半

関宿御入部後 見樹院様五拾回御忌ニ付御菩提  
所御建立号見樹寺 住職鴻巣勝願寺より被召曉  
誉上人來住御法事執行御上京御供千本屋敷の内  
に寺有京御代り前隠居鳥羽法伝寺江移住後住ハ  
船誉上人也

当寺前代御菩提所ニ而号瑞泰寺

初ハ北ノ方山際に門在し由 先御代今の所江被  
移前の道広く成初ハ北の海端も通し由道広成海  
際止鐘楼有鐘に銘有瑞泰ハ京極高知侯牌号也  
元來武劔豊嶋郡駒込村に有其後神田江移慶安元  
戊子年今の所江移委細鐘に銘有略之  
御所替之節靈所ハ残し被置毎年御代香御使者來  
靈所ハ寺の西之山際山を引拘し石を積上げ一段  
高く成し牌電四ヶ所扉破風ノ彫物等結構丁寧成  
造作也 下段北の方に高知侯追腹の土石塔五ツ  
あり

南の見付 丹後守 高知法癒諱 <元和八壬戌年／瑞泰院殿真嚴可／八月十二日  
>

次 修理太夫 高三法諱 <寛永十三年丙子年／惣泰院殿雲山道徹>

次 高知 姨法諱 <寛文三癸卯年／養福音殿法山寿慶／正月七日>

次南向 高三法諱 <元和四戊午年／法性院殿真廓道保七月七日>

享保二十乙卯年靈家及大破但州豊岡ヨリ疊レ石  
塔斗

寛文三年正月追腹之土左之通

葬礼供 屋敷船着南東角 舟木左京亮真政 寺ニ而切腹 <家老録千石三十二  
才／又三十三トモ跡目主馬／介六才三百石二十人／扶持>

即日 同所北ノ端 伊庭右京進真勝 宅ニテ <家老録千七百石三十／才又  
二十五才トモ跡目／当才莊蔵百五拾石>

同断 二ノ丸大腰掛西 伊庭縫殿介真 ■ (巽カ) 御城ニ而 <禄六百石又  
三百石トモ／二十才跡目／舍弟百五拾石>

同断 石束主殿真舟 同断 <小姓録三百石／拾八才／源五兵衛末子>  
供 勤寺ニテ水原伝兵衛正盛 <徒侍病身接木畑／預り四十五才トモ／六拾才  
トモ>

玉露叢云寛文三丙子（ママ）年五月廿日今年始テ歿死  
御制禁之趣左之通

覚

- 一 歿死ハいにしえより不義無益の事なりと今（ママ）し  
め置といへども被仰出無之故近年追腹之者数  
多在之向後左様之存念可在之者には常々其主  
人歿死不仕候様ニ堅く可申含若以来於在之は  
亡主不覚悟法度たるへし跡目の息も不令押留  
儀不届可被思召者也

寛文三年五月廿日

京極西六条竜谷山 親鸞上人の弘法 龜山  
院御宇文永九年上人の息女覚信尼公に始る  
一向宗瑞光寺 西本願寺末  
人王百七代後陽成院御宇文禄三甲午年

細川幽齋卿建立

境内壱万拾余坪内 <三千坪は門内七千拾／余坪ハ門外寺内町>

本尊 阿弥陀 定朝作

客殿 八間二七間 庫裏 <九間半ニ四間半／今四間ニ七間>

廊廂 三間ニ二間 鐘楼 一間半四方

門 <三間ニ二間／今一間半ニ一間>

若州小浜城主京極若狭守高次卿楠伊賀正重五男  
源五入寺落髮其名明誓（ママ）と云 偏ニ真宗の浄葉（ママ）を  
進修此時幽齋卿玄旨田辺ニ居給ふ寵子有茶知丸  
と号す 明誓を始為師然共茶知丸世塵になずん  
で出俗を願ハす依之瑞光寺を建明誓を住持とす  
細川氏及九曜の紋を給り伯父猶予の契約をなし  
妹を以姫しかのみならず裁一楮（ママ）寄本願寺頭如上  
人の蘭室に於て諸般の志願訴（カ）へ上人以圭復副（ママ）之  
本尊弥陀仏開山歴代之真影一國僧禄之状且所附  
一家之位階なり 玄旨欣の余り寺内町百有家を  
割て附於法廟実ニ文禄四年三月十四日也 延宝  
五丁巳年十二月廿日夜出火焼失す 伝説 古来  
ハ寺之西南の方幅二間斗の堀有大橋と新町の境  
両所に門有寺の北袋町とて狭路有し後に畑と成  
る楠性 楠太平記評判ニ云

人王三十代敏達天皇五代御胤井出左大臣正一位

楠諸兄公十四代孫從五（位）上楠兵衛正二男太夫判官

正成任河内守 延元二年五月廿五日（ママ）出撰津湊河

卒

瑞光寺代々

開山 誓力

明誓 妻細川幽齋卿妹 <中納言 早世／明英／明量>

二代 明英 <自宮津江退キ一寺建立号仏性寺／則瑞光寺隱居所也>

三代 明量 <妻九鬼式部少輔秀隆侯姪／安閑越中守某女> <明伝 早世／

明周>

四代 明周 <妻酒井修理太夫殿家臣／侍大将岡園兵衛嫂> <二位 肥前国

大福／寺住職／中將／女子若州証明寺妻>

五代 中將 <朽木土佐守殿家臣／郡町支配平田八郎左衛門女>

- 一 寺内町大橋南の入角菱屋七左衛門ト云幽齋卿  
御代ヲ相續年久敷町人故記之 元祖生国近江平  
田村郷兵乱ニ付洩 慶長年中細川家之節田辺江  
来佐々木庄左衛門と云京極家に至り苗字京極の  
分故憚之平田と改め紋所四ツ目結是又改菱に替  
則家名とす

佐々木庄左衛門 <二人平田村ニ残／同莊左衛門>

一 松平志摩守殿内 吉見庄左衛門 二 丹後中浜 畑中長左衛門

三 京寺町四条角 鶴屋市左衛門 四 丹波福知山 木屋五兵衛

五 若州小浜 岡田彦右衛門 六 丹後宮津 鶴屋六右衛門

七 平田七左衛門 号道寿八十才卒

一 平田仁左衛門 号広閑八十五才卒 一 平田仁兵衛 七十一才卒 <丹

波上林藤掛伊織殿／千五百石代官勤>

二 西町藤兵衛祖先 二 丹後中浜平田増右衛門

三 越後新潟六兵衛親 三 丹波古和田与右衛門妻

四 丹後中浜増右衛門祖先

平田仁左衛門

子十人有略ス菱屋寺内町前々町代勤

真言宗

円隆寺 慈慧山 知恩院 無本寺

寺領地方三十五石

内引土村高之内二拾六石

大野辺分之内九石

開基人王六十六代一条院御宇長徳年中

皇慶法印

理性院伝来記

文祿四乙丑(ママ)年八月十日大雨崩什物縁起等失ス

本堂 五間四面 住持良弁代以自力本堂

寺院破損修理訖

本尊 阿弥陀 <薬師／釈迦> <不動／毘沙門> <不知作／行基作トモ云>

鰐口 <丹後田辺比丘尼恵阿／曆応二己卯年八月十五日> ト彫付有由

八幡大神宮 三間ニ二間 類焼迄は一丈五尺今は五尺

塔 二間四方三重 本尊 大日如来

薬師堂 行基作 二間四方 理性院持

観音堂 不知作 二間四面

鐘楼 二間四面

客殿 五間ニ三間半

庫裏 <東西四間南北九間／四間ニ三間ノ廊下有>

護摩堂 三間半ニ二間

聖天堂

塔頭三ヶ所

理性院 西谷坊

成就院 二王坊

吉祥院 池ノ坊

類焼後未建立無之

門前町 二十軒 但南北三十五間五尺

惣境内 四千二百九拾六坪

但門前町家トモ其外山林有  
惣門 三間ニ二間 多聞天 持国天  
增長天 広目天  
四天王ヲ内外ニ勸請ス

末寺五ヶ所  
万願寺村 不動院 万願寺  
女布村 法光院 菩提寺  
観音寺村 花蔵院 観音寺  
別所村 安養院 真久山  
丹波梅迫 威徳院  
愛宕山権現社 本社五間四方 客殿三尺四方  
円隆寺持元来理性院持也 後円隆寺江移 五  
月壺ヶ月斗理性院持也  
麓方八丁惣門方九丁山上ニ有テ中程ニ休堂有本  
堂棟札モ無之縁記モなし 飛驒内匠建タル由云  
伝なり

峠より下西ノ方福井村江下ル道モあり  
六月廿三日祭也夜祭御家中札多翌朝（ママ）愛宕ノ宵  
祭也 翌廿四日参詣多し  
太郎坊社 二間四方 宮殿 六尺  
拝殿 九間三間

右愛宕ハ京極飛驒守高直侯御再興  
昔女布村に山脇（ママ）宗把ト云住居此節本堂も塔  
も建之由伝説不慥 二王門或時焼失二王を除安  
久村<後に至てみれハ／吉原町より下也>北の浜に置夫方其辺を二王崎  
と云由 其後類焼難除焼失其以後門無しと云先  
御代門と用水の所被仰付堂の西の方本尊の後堂  
のはめ板に放駒の絵有巨勢金岡筆の由 此馬夜  
々出て田畑を荒し東ノ方若狭道白鳥峠方東土橋  
迄行て帰ると依之此橋後の世迄も駒返の橋と云  
伝 其後是を繫駒とす夫方は不出此絵六十年斗  
以前迄薄く見へたりし次第に消て見へかたし  
其頃理性院住持秀円と云し僧絵を好右之図を  
よく覚へ脇に書たるよし  
円隆寺の奥ノ方山脇に稻荷あり奥の堂の才蔵ト  
て靈狐之由云伝ふ先御代由良村磯にて大網御覽  
之節大亀一ツ掛れり小舟に乗せ船着迄廻り葉山  
信水被仰付画之其絵馬を愛宕山へ被為掛也 高  
橋助之進蒙仰亀の記を作り亀ハ沖江放し給ふ  
亀の記別に有宝永五戊子年九月町中年寄発記（起カ）山  
の麓に石の鳥居建立す 在町貨物寄進其後石壇  
を造九月十五日場所鋤初十月十九日花表棟上廿  
一日供養

手水鉢 久美屋理右衛門 寄進  
廻り石場 勇屋和右衛門  
葎屋四郎三郎  
丹波屋勘介  
時ノ住職 良泰法印  
寺僧 成就院 快弁

理性院 良院  
橋本坊 良遍

造料銀壹貫九百九匁二分之由  
石壇之石貳百貳拾五本半 代銀六百七拾六匁五分  
之由

右神門寄付銀高不足ニ付丹波屋嘉右衛門貳百三  
拾匁取替出追而石壇の寄進銀余慶を以引取由  
猶又嘉右衛門發起ニ而当寺者御祈願所たりと言  
共大般若經無之転読被仰付時は桂林寺ニ而借用  
申方外なし 御安全守護大般若調納仕度此度不  
足取替之銀を以百卷調可申残り五百卷追々寄進  
も可在と百卷を調進上す 然処に酒井信濃守忠  
吉侯奥方様御安産御祈禱被仰付則被遊御平産候  
ニ付知恩院御城江被為召白銀五枚頂戴し直に丹  
波屋江立寄此施物ニ而大般若百卷調弥以御安全  
奉祝候由 嘉右衛門最初調候百卷を知恩院を主  
とし二百卷目嘉右衛門寄進と振替納其後方々よ  
り寄進六百卷出来奉納なり

桂林寺 天香山 丹波洞光寺末  
丹後一國惣祿寺領三拾石福井村ニ有之門前拾四  
五軒有

境内千七百坪 門前屋敷二百八拾坪ノ千九百  
八拾坪其外山林有

末寺三十四ヶ寺 内和尚寺四ヶ寺

本尊 阿弥陀 唐仏

脇立 観音 勢至

客殿 拾壹間ニ七間半

方丈 三間半四方

庫裏 九間ニ四間半

衆寮 六間ニ三間半

禅室 五間四方

鐘楼

山門 <享保二酉年香邦和尚代新造ノ四間半ニ貳間半>

経蔵 三間四方

惣門 一間半ニ一間

後小松院応永八辛巳年竺翁雄仙和尚開創号洞林  
寺 其時之地頭より寺領三拾石寄附在之其後後  
花園院宝徳三辛未年八月十五日地頭坂根修理亮  
先祖宝光院心華院父桂林院の為に新に三拾石寄  
附在之 其後細川幽齋卿田辺江入給ひて坂根之  
寄附を落されて開山時の寺領三拾石天正十一未  
年八月四日寄附有之其証書を給り古鐘一口を附  
せらる

其後忠興卿慶長五庚子年十月二日先規之通三拾  
石の黒印三躰一斧之本尊大幅の涅槃宮津に在し  
珠光庵同諸什不殘引取寄附在しなり 忠興卿豊  
前小倉に移り給ひ京極高三侯父の跡を継居せら  
れし先証に従ひ折紙を給ると云々 小野木兵乱

之節六代目大溪和尚末寺共籠当住香邦和尚享保元丙申年能州総持寺輪番勤紫衣の袈裟を免さる同十四年二王門造立兩像安鎮同十九甲寅年七月供養八月廿三日方千部読経三月結願慶長五年石田治部少輔三成依叛逆田辺の城を七月廿日方九月十二日迄攻る 城中防之此節廻状写

田井成生之者共此節之儀ニ候間随分可奉公候於望之段者任本意次第加扶持可褒美候此分其方相心得可申聞候也 已上

七月廿七日

玄旨

岡本新兵衛殿

此書之写平野屋町五郎左衛門家に在写之參河後風土記ニ云石田治部少輔兵乱に付大阪方依下知田辺江押寄軍勢

谷出羽守 丹波ニ而一万石

小野木縫殿介 <丹波福知山ノ拾万八千石>

藤掛三河守 高不知

高田豊前守 高不知

小出大和守 <但馬出石ノ五万八千石>

杉原伯耆守 但馬豊岡

別所豊後守

生駒左近太夫 <後讃岐守高松丸龜共ノ拾七万石>

木村左兵衛 <異本ニ才兵衛ノ二万二千石>

此時幽斎卿源氏物語二十一代集相伝し此度籠城にて討死セは城中炎上此本永滅んとする事を惜みて三条大納言迄二部の書を献一首

古へも今もかはらぬ世の中に

心のたねを残す言の葉

右之外但馬丹後に領地ある輩ハ悉向ふ都合其勢五千余人慶長五年七月廿日卯の刻より攻後陽成院御救三条大納言九月廿二日御下向和睦圀を解と云々

浄土寺

浄土寺 随心山 清泰院 京白川華頂山智恩教院大谷寺末右知恩院ハ浄土宗惣本寺鎮西流儀也元祖円光大師

当寺境内七百五拾六坪

末寺 二ヶ寺

当寺開基人王百六代正親町院御宇永禄十辰年

開山尊誉上人

本尊 阿弥陀 并<地藏ノ観音菩薩> <此内地蔵後年相願ノ勢至菩薩に改る>

客殿 十間ニ八間

庫裏 六間ニ四間

門 楼門也 鐘楼ヲ兼 二間ニ一間半

観音堂 二間四方 土蔵造り<堂中に三十三所ノ之観音像安置>

弁財天

縁起無之伝来ヲ以桂林寺靈重和尚鐘之銘ヲ作当

時ハ元来巨勢金岡河辺村を領し屋敷を立後に寺とし号随心寺与台宗也 其後福来村ニ移又丹波町平野屋町の間に移両町之間に有を以中之寺と云習はず 其後今の所に移す永禄元戊午年也今年八十三年ニ及随心を以山号とし浄土寺と改三誉上人代桂林寺靈重和尚ニ語ルー卷之書有案文ヲ拔書

三誉上人之時鐘樓門を造立する三誉常々宿望ニ觀音の靈像と言造刻せん事を願ふ 或時撰州勝尾寺の辺方無屋と云僧尋来る連中懇志（意カ）成し故に願望の趣語りし時無屋云我も觀音信心浅からず仍一像あり聖徳太子の御造刻十一面觀音成今上人甚深の宿願を感じ惜みかたとして三誉上人に送れり 上人由来を尋しに無屋語云撰州中山寺ハ三十三所之一数也此本尊の觀音の靈木ハ人王二十九代欽明天皇御宇御即位十四年和泉国泉郡茅渟の海辺の梵音の闇有り其声雷の如く光り有里人怪立寄見るに玉の如き靈木也 把て常地に置其比ハ和泉国近邦共早魘し疫病流行諸人飢餓に死る人数を不知 然に靈木を迎し其日・枯木ニ花の咲如く病人共忽平癒し国土穩なり仍諸人大感悦す 聖徳太子聞召て其靈木を御迎有て十一面觀音二軀地蔵の像一軀を自刻し給ひぬ 觀音一像ハ中山の本尊也残り一軀別堂に居奉られし世替時移建武明德の大乱に五畿の堂閣戰士の為に住所となる 是方爰かしこ御座を移し我先祖迎て本尊とせし故我方に信尊し奉るとて上人に送る

上人弥求願渴仰再拝して是を更猶此上に三拾三所の靈像を造刻し一堂坐に双べん事を思へり此事人に語るに善男信女聞ふれて未三月を越さるに三十三体造立せり 其外衆人聖徳の門に入んと地蔵不動荒神聖徳太子の諸像新造せり 門前三十三所觀音堂有り前に令水有近町の用水と成る 福来村寺跡（カ）其村の墓所と成畑と（成・脱）今に浄（土・脱）寺檀下七八人有之由

#### 日蓮宗

妙法寺 長久山 京小川ノ北具足山妙顯寺末  
妙顯寺開基日像上人於洛陽日蓮宗最初之寺也

後醍醐天皇の勅願所

当時境内千三百坪

人王百六代正親町院御宇元龜三壬申年開山権大僧都日上人

本尊 釈迦 多宝

番神堂 五尺ニ三尺

拝殿 一間半四方 此内ニ宮殿有之

客殿 七間ニ六間

方丈 四間四方



庫裏 七間ニ五間半

式階座敷佳景也

鐘楼 一間半四方

二王門 三間ニ一間半

縁起無之当住日逢上人伝来之旧書ヲ見聞一書述  
作有其分ヲ写ス

抑長久山妙法寺ハ宗祖日蓮大士の門流にして花  
洛妙顕寺の末流也 其草創を尋るに昔慶長年中  
開山権大僧都仏乗院日賢上人此地に遊歴し庵室  
を営厚く妙経を敬持し広法要を宜す 時の太守  
細川兵部大輔藤孝卿或時野遊に出給ひ近習の諸  
士六七人同装束ニ而召連られ庵室に入来し給ふ  
折節日賢ハ口に経を誦し堂前の塵芥を掃除す太  
主（守カ）日賢ともしろしめさす問て曰住持ハ在寺なり  
や日賢答て則我なりと大主曰伝聞和僧花（此所  
不見）化の持者として衆生を訓導すと善哉々々  
且独り歌を能すと其实ならば忽に一詠を聞んと  
宜ふ 日賢少も不辭

世の中は風呂や柄杓（杓カ）にさも似り

入時斗我物にして

太守曰歌の意味尤面白し然と云へ共住所の体  
を見るに軒にハ松柏打覆ひ枝を払体も見へず歌の  
心と甚異なりと難し給ふ 日賢曰此松柏は国守  
の樹にして枝は扱置木の葉も難取と太守大感悦  
し給ひ是実の仏子成とて突給ふ所の杖を上此谷  
西ノ方尾崎より南西の嶺迄東北の尾崎を一谷不  
残永々是を寄附せん武運長久子孫繁栄の祈禱し  
給ふと云々 日賢太守とは聊は（もカ）不知して嘲嘆し  
て曰貴客の免許更に難受用と太守曰我ハ則兵部  
大輔なりと宜ふ 日賢驚平伏尊敬す爾来太守信  
敬他に異也 則今の山林境内是也

依是太守ハ替りましますといへ共任先例御代々  
御免許の靈場也 其後寛永年中当山三世妙雲院  
日実上人住職に当て檀頭上野与惣左衛門入道三  
清三宝に帰依し為子孫栄世当来仏堂宇建立の  
大願を発しき 然といへども存生に其願満足せ  
ず寛永二十一（年・脱カ）及末期子息<後号／与惣左衛門>を枕元に招  
きて我日頃の大願なれハ雖死後長久山の地を開  
き堂宇等必可造立と云々

仍両息輩ハ父の守遺命正保四丁亥年終に本堂・客  
殿・庫裏・番神・鐘楼・惣門・二王等迄悉成就す 是則当  
山建立開基也 今逸見与一左衛門先祖也 夫ハ  
以来享保十八癸丑年迄九拾四年法灯日々耀き信  
檀月々倍増す成後五百年の時到記那（り・脱カ）

上件者当山古記小紙等散在して難見分即文筆  
難（雖カ）不学唯為後代集一紙書写するのミ乞願ハ後  
世博文達筆の賢師以此辺更ニ改メ写給へと云  
々

享保第十八癸丑曆六月吉辰

当山  
第拾四嗣  
法明院

日逢判

講中

時ノ檀頭

逸見与一左衛門

一 村 忠兵衛

日蓮宗

本行寺 妙光山 京北野五辻恵光山本隆寺末 本隆寺開基日真上人

当時境内六百四拾壹坪 嶋崎替地トモ

人王百五代後奈良院御宇弘治二丙辰年

開山 日雄上人

本尊 <釈迦ノ多宝>

番神 一間四方

拝殿 一間四方焼失

大黒堂 新造

客殿 八間半ニ五間焼失後七間ニ六間

庫裏 六間ニ四間

門 一間半ニ五尺焼失

当住職伝来書写

後奈良院御宇弘治二丙辰年百七拾九年に及ふ本山第四世日雄上人草創也 初ハ安久村に有其後京極丹後守高知侯城主之時家臣前波九右衛門英檀たり毎に通ひ遠きを歎て高知侯に願ふて今の所に移す 高知侯方寺領一石壹斗五升寄附三男兵太郎出家せしむ 若年にして卒去法名号ニ究竟院殿清池蓮久大童子ト 修理太夫高三侯代亡弟究竟院殿の香花の為田園を増す都て式石五斗式升一合也 寛永十二乙亥年ト云々

浄土宗

松林寺 滝野山<以前建部山トモノ云り来迎院> 京白川華頂山智恩院末

浄土宗惣本寺鎮西流義

当境内三百坪 其外山林

人王六十七代三条院御宇長和元壬子年慧心僧都

草創 御初入以後見樹寺伴僧長伝入寺 二代目

東山寺梅珪和尚 第三代当住也

本尊 阿弥陀 安阿弥陀

脇立 <観音ノ勢至>

客殿 庫裏トモニ九間ニ四間

鐘楼 一間半四方

門

観音堂 二間ニ一間半

親子対面之観音ト云縁起ニ委有略ス

住持伝来

人王六十七代三条院御宇長和元壬子年恵心僧都

此所ニ住居号滝野山来迎院笛原寺光蓮社岌円上

人阿公大和尚を浄土宗と成松原寺と改む 炭円  
上人は大永五年遷化<二百十ノ年ニ及>寺の南ノ谷に小滝あり  
令水なり滝のと云 庭に大木あり今枯てむ之

浄土宗 見海寺 滝溪山 浄土寺末  
本尊

恵比須堂 <正月十日ノ十月廿日> 祭

開山源誉和尚延宝年中也

客殿

庫裏

鐘楼

門

文禄年林田源之浜と云者大橋の辺に居住其舎弟  
歳之允代々一向宗にして慶長元丙申年朝代社丑  
寅に当りて草庵を結び坊号釈ノ等庵と云 其子  
二代目釈ノ了悦正保三丙戌年洛東本願寺十三世  
如上人寺号木仏御免真筆今に在り 了悦代今の  
宜所に移る当住悦仙迄四代也 延宝五年十二月  
廿日瑞光寺出火(ママ) 出火速に飛来り当寺類焼外に類  
火無し寺斗ニヶ寺不思議成事也 其後猪子五郎  
座敷調建る又其後堀市太夫三省門を建寄進(し・脱カ)て  
源ノ浜ハ今の大橋北の角林屋祖先之由田の字を  
略し家名とす 末の娘亀屋孫左衛門祖先入婿に  
成家を分て亀屋と云苗字ハ林田之由

延寿院 醍醐 深雲山醍醐寺三宝院末流

山上ヲ上醍醐ト云麓ヲ下醍醐ト号真言宗ニテ

修験道也 開基ハ聖宝尊師謚理源大師延喜四

年建立メ法務ハ三宝院御門跡ト称ス

本尊馬頭観音 立像七寸五寸(分カ) 大宮御作

不動明王 智証大師作

弁財天 弘法大師作

正徳五年六月

御城御庭之社ヲ移被下

開山 権大僧都 光盛法印 平野屋町住

二代 大先達阿闍梨真慶法印 丹波町住

三代 大越家 槃(ママ) 清法印 先名長盛

四代 大先達阿闍梨秀永法印

五代 正大先達阿闍梨秀義法印 職人町ニ移

魚屋町地福音後持宝院ト改住持ハ秀盛三男槃清

ハ延寿院住職ト成其後槃清不幸ニ付兄秀永継之

其後持宝院ハ断絶

浜村の杉山にて詭(いつわり)たる童子修験と成 魚屋町ニ

住槃清代延寿院江移依之浜村杉山の香花勤行延

寿院より執行

杉山祭 七月廿三日 日尽シ 八月廿四日

護摩供

臨川山新天神額当院に納在之由持明院基時卿御

筆なり当寺額書之家能書なり

私云昔ハ能筆京都其近辺名高神社仏閣に額多今

ニ存セリ遊官（ママ）之節見物有ヘシ高名能筆左之通  
 本朝高名ノ能筆 嵯峨天皇 弘法大師 藤原  
 敏行 小野義材 中書王兼明 小野道風 <空ノノ頭本>  
 <朝三跡第一ノ能書ノナリ野跡ト号ス> 大貳佐理 <大宰大蔵小野宮実ノ頼  
 ノ孫本朝第二ノ>  
 <能書佐跡ノト号ス> 後中書王具平権大納言行成 <義孝ノノ子本朝>  
 <第三能書権跡ト号此子孫ヲノ世尊寺ト号代々能書ナリ>  
 是等ノ人々ヲ申トソ此外ニモ名筆多所謂上宮太  
 子大織冠鎌足 <異国ノ能書鎌足ノ手ノ跡ヲ見テ大ニ感ス> 聖武天皇  
 光明皇后 <大織冠ノ孫女聖武ノ后ノ古今女筆ノ比類ナシ> 魚養橋ノ逸勢  
 中将姫菅家 <夜鶴抄ニノ聖跡ト号> 藤原公任 同定頼 関白  
 忠通 藤原基俊 左大臣有仁 世尊寺行能 <権大ノ納言>  
 <行成ヨリ名高キ能書ノ家ナリ新古今ノ奏覽ノ時清書ス明月記ニ見ヘたり>  
 経朝 <行能ノ子ノ白川三位>  
 <ト称す世尊寺ノ家能書ナリ> 内府有房<御家流ノノ大祖> 尊円親王 後伏  
 見院 <末世ニ類ノスクナシ> 御光嚴院 <妙絵ノタリ>

●中巻

定免八ッ

円満寺村 高百三十一石九斗九升二合  
 内四石一斗三升二合一勺 万定引  
 六石御用捨高

往古当村大村なりし此村を均して今の御城築く  
 うの森の宮氏神なり今御城中に在り 鵜鶺大明神な  
 り 此村之者は此宮江参詣ス 此余略ス

中 筋

定免七ッ三分

引土村 高五百八十九石四斗五升四合  
 内四拾五石八斗八升五勺 万定引  
 三十石御用捨高

古城 長沼小太夫

九社明神 八万トモ 六月十三日祭 夜角力踊

森の内稻荷社有 <四郎カ鼻孫太郎ノ赤崎新兵衛ノ高島弥蔵>此三狐ヲ祝由

若宮八幡宮 伝説ニ小太夫廟所ト云

京橋 町ノ入口ニ掛ル橋也 橋ノ向松暎ナリ 此辺  
 を八丁縄手と云 伊佐津村方内田地八丁有トモ云 引  
 土村公文名村辺街道縄手を飛廻る火あり 小太郎火  
 と云伝ふ 鞠程の火飛事逸く高く成又早成 或時職  
 人町裏堀端にも飛来る 或時松本半左衛門弓ニ而是  
 を射たれ共替る事なし 前々ハ度々出たれ共今ハ出  
 事稀なり 火の出る所ハ当村小太郎の宮方出ると云  
 習す されども所之者も小太郎之宮をしらす

定免七ッ八分

公文名村 高三百八十四石貳斗五升  
 内三石七斗貳升二合五勺 万定引  
 三拾石御用捨高

公国寺 慶徳山 桂林寺末  
笠水明神 <公文名村／伊佐津村> 七月六日夜祭 神楽  
相撲あり

七日市村 高三百四石九斗六合  
内拾貳石貳斗二升二合五勺 万定引  
四十三石御用捨高

西光寺 仏得山丹波安国寺末<七日市村／伊佐津村／万願寺村>三ヶ村寺  
本寺 京都東福寺丹波安国寺末裔也  
享禄三庚寅年建立也

本尊 薬師如来 六月八日祭

開基 湖仲春景座元

慶長四年四月十二日寂ス

九重明神 九月十七日祭 湯立斗

宮地ハ川向方万願寺ノ方ニ有

七日市村以前柿の木あり 実ならざる故ならず柿  
といふ 今ハ枯れてなし 其所を今ならず柿という  
ならハし 所の名にいふ

伊佐津村 高四百十二石一斗六升  
内拾五石四斗二合五勺 万定引  
二十石御用捨高

サイフク庵 諸宗無差別持ツ

三宝荒神 村の西田ノ中森ノ内ニ有リ

当村は紙漉と百性（ママ）入交り大村也 古来堺村之内也  
後に分れしなり

細川藤孝公御代越前国方紙漉呼寄らる今紙屋嘉左  
衛門先祖也 其後市郎兵衛といふ者来其頃ハ大内町  
に住す 伊佐津村江移由六十年以前<今百貳拾／三年以前>迄川東  
観音被祈土手の下り口に小き流れあり 紙漉貳三軒  
有之此者共但馬豊岡より来りし由 洪水に堤切其後  
何方へ行しか家なし 村の南方に女夫柳とてあり其  
辺ハ不耕よし子細ハしらす

小野木縫殿介合戦之時水道を留んとする百性（ママ）出て  
防之武者一騎乗掛たり村之者熊手を掛引落討取たり  
褒美として苗字を乗掛と給る今の次郎兵衛といふ  
者の先祖の由

定免七ツ一分

真倉村 高百三拾九石一升六合  
内貳拾壹石貳斗八升二合四勺 万定引  
三拾三石御用捨高

善通寺 竜谷山 桂林寺末

三宝荒神

定免七ツ六分

十倉村 高九十七石四斗九升  
内一石三斗三升五合五勺 万定引  
拾貳石御用捨高

一ノ宮 <真倉村／十倉村>ノ氏神 九社之内  
医王寺 十倉村 安国寺末

京田村 高三百五拾六石八斗五升  
内四石三斗七合八升 万定引  
五十五石御用捨高  
手力雄明神 九社之内  
善福寺 白雲山 安国寺末  
此寺年久地蔵有リ 安国寺ノ作地蔵之記有  
長文故略之 安産ヲ守ト諸人詣ス

定免七ツ一分

女布村 高三百六十七石九升  
内貳石 万定引  
十石御用捨高  
古城 山脇相破 (ママ)  
日原明神 六月十一日祭 九社之内  
牛頭天王  
下森明神 九社之内  
九社明神之御旅所也中絶ス 村ヨリ東方山際ニ森  
有リ芝原也耕サス  
隣松寺 古谷山 桂林寺末  
菩提寺 金峯山 法光院 知恩院円隆寺末  
縁起不知 伝来ハ足利尊氏公ノ比建立ト云元  
来天台宗也 段々退転中比ハ百性 (ママ) 守護也又山  
伏持ニモ成 古昔ハ寺モ多シ今ハ此寺斗也  
本尊 薬師 惠心僧都作  
脇立 観音 弥陀 不動 毘沙門  
元禄年中焼失本尊斗残ル

定免七ツ九分

野村路村 高三百六拾八石三斗四升  
内七石九斗一升五合 万定引  
五拾貳石御用捨高  
法寿寺 安国寺末  
积迦堂  
当村ヨリ福井村江越道有クス子ジト云

定免七ツ七分

城屋村 高三百七拾壹石三斗九升  
内二石六斗八升三合 万定引  
拾五石御用捨高  
奥山村ハ当村出村也  
天曳明神 六月九日祭  
大松明ノ祭 珍鋪祭ニテ年ノ豊凶ヲ試  
愛宕権現  
牛頭天王  
永福寺 昌林山 東山寺末

高野由里村 高三百八十一石九升  
内五石八斗三升三合三勺 万定引  
六十石御用捨高  
古城 今安相模守  
山王 <野村路村／由里村>ノ氏神 六月十二日夜祭 相模  
峯薬師

定免六ッ七分九厘  
上福井村 高五百四十五石一斗一升  
内七石七斗九升六勺 万定引  
二十五石御用捨高  
古城 福井藤吉  
八幡宮 八月十四日祭  
薬師堂 九月十一日祭  
当村方七月朔日新米献上す小俵二ッ 当村追分ニ  
而右之方道ハ川口下東<中山・油江・蒲江・神崎／由良・石浦・和江>の道也 左に  
細道あり 先御代道作被仰付川端方真壁峠江分る道  
有此所式里あり真壁通りと同じ道法也 併此道筋よ  
し少斗峠有道端に冷水あり場所奇麗に被仰付其冷水  
を一盃水と被名付 其向山際に松其外茂りて奇麗に  
見る所有是山神の社なり

定免六ッ三分一里  
下福井村 高二百九拾三石八斗八升  
内二拾石御用捨高  
和泉明神 福井上下ノ氏神  
当村土橋際二軒家中下福井分也 当所と喜多村の  
間に有る山を建部山といふ<是を田辺富士山／と云ならハす>高山なり  
八分目に小池あり雨強き時は水谷江流れ滝を見るが  
如し 下福井方川口江越道難所蔵王峠と云 峠の上  
に到れハ建部山絶頂も近く見ゆる也 村方無常院迄  
を大野辺と云見渡す所を四所か浦と云又九景か浦と  
もいふ 此所愛宕江上る道もあり  
無常院 見樹寺派下  
延宝年中順昌ト云道心此所ニ草庵ヲ建元禄年中ニ  
一寺建立常念仏ヲ肇ム是開山也 元禄七甲戌年二月  
十五日導師見樹寺船誉上人

定免六ッ一分  
喜多村 高二百二拾六石  
以前ヌカタベ村 内二斗六升四合 万定引  
五石御用捨高  
宮崎九社明神 六月十日祭 九社之内  
天照大神宮  
当宮の事御代官高取助内を頼尋たりし庄屋方  
書付左之通り  
百年程以前ぬかたべと申時分村方沖江獵船出候阿  
る夜東の方方たいまつ一把ほどの光りに成て則今の  
屋敷五間四方程の小畑御座候 其ふちに高さ一丈ば

かりの檜木一本御座候 其木のりんに御はらひ一把  
とまりて御座候 其節右之通御公儀様江申上候処早  
速御神楽御上なされ就者御たくせんに東白糸の浜に  
居たれども阿まりのむさゝに此所江いほりをしてく  
れとあり 則屋敷御普請御公儀様方被遊候

御本社 一間二一間半  
風ノ宮 五尺四方  
中ノ庭 二間四方  
舞台下ノ間 六間二十間  
稲荷宮

右立申候時分前庭九右衛門殿度々御見廻被成候其  
節御祓はんこもあり 御家中町方から御はらひ入申  
候へ共只今ハはんこも無御座候

庄屋 惣右衛門

藤波二位景忠卿ニ伺申上シニ神明勸請ト申事者決  
シテ無之事之由仰有シ由 然共所々神明宮有事ハ御  
諒有シ所ニ御祓を祝申候事カ

薬師 八月七日祭  
毘沙門堂

定免八ッ三分

吉田村 高貳百拾三石九斗四合  
内壺石三斗三升九合六勺 万定引  
拾五石御用捨高

九社明神 九社之内

瑠璃寺 金剛山 桂林寺末

年取嶋 本書ノ文昔中院殿配流之由歌有略スト  
記ス

語園日中ノ院中納言通勝卿先帝之勅勘ヲ蒙リ流浪  
シ細川玄旨ヲ打頼ミ十九年星霜ヲ送り給ふ 其内ニ  
剃髮シ玉ヒ也足軒素然ト号シ世棄人ノ如クナリシヲ  
賢才ノ誉レ有ニ由テ後陽成院ノ御宇ニ勅免ヲ蒙テ帰  
京其時詩ヲ賜テ曰

旅雁北飛残朧天 今宵話旧思欣然  
前身蘇武去来否 一瞬居諸十九年

也足奉和之倭歌ニ

おもひきや 雁の便りをしたひにし  
雲井にかへる身もことしとは

伝織 (ママ) 洽聞古人ヲ恥サレハ常ニ龍顔ニ近キ奉テ有職  
和歌之秘奥ヲ常談シ給フ其余略之

定免七ッ弍分

大君村 高百拾壺石八斗五升  
内九石御用捨高

三宝荒神 六月十四日祭

琴ノ滝不動明王 琴ノ滝有リ

定免八ッ四分

青井村 高百拾七石三斗八升九合



内二石九斗三升八合三勺 万定引  
九石御用捨高  
胆吹明神 九社之内  
薬師堂  
青龍寺 瑞雲山 桂林寺末

定免八ッ四分  
白杉村 高四拾四石三升壹合  
内壹石五斗六升六合 万定引  
三石御用捨高  
蔵王権現  
玉泉寺 天尊山 桂林寺末

定免七ッ七分  
堺谷村 高百五拾五石壹斗七升六合  
内百四拾石八斗八升八合村分  
拾九石八斗壹升五勺 万定引  
七石御用捨高

定免六ッ 拾四石貳斗八升八合同村小兵衛分  
君の徳や感応涼し神の庭 浅野五右衛門 重信  
民もゆら／＼田をうゆる頃 柿沼三郎兵衛 正明  
心よく水沢山にながれ来て 西尾六左衛門 昌良  
不断めぐみのたへね寿き 秋保九郎右衛門 親清  
月彰に大盃やめくるらん 中川甚五左衛門 高知  
長き夜あかす諷ふ一婦し 三宅七郎左衛門 盛良  
百性(ママ)の秋に踊を催ふして 幸山金兵衛 長政  
駒はやめかし稲はこふ成 井山武兵衛 重良

追加

神も君も臣も涼しや境谷 中川甚五左衛門 高知  
富万歳と祝ふ此夏 秋保九郎右衛門 親清  
夕風に酒をすすめて楽しふて 井上助太夫 重則  
ゆう気くすり(ママ)なおはしまの月 直正  
臨川の流りに秋の舟あそひ

三宅七郎左衛門 重信  
露志つほりとたるる釣 西尾六左衛門 正忠  
奉公の手すき／＼になくさみて

三宅七郎左衛門 盛良  
かわゆらしけに育つ小息子 西尾六左衛門 昌良  
俊次云時移事去祭も中絶宮居疎になりぬ 額も延  
寿院に納置くよし縁記別に記ス

香谷久当同僚 古河 浅野 柿沼  
寺井 幸山 中川  
永井 三宅 小林  
西尾 秋保 井上

仁寿寺 水清山 京大和 大路西福寺末  
六月十七日ヲ夜祭ト云御家中御門留  
七月九日千日参り御門留ナシ

人王八十九代後深草院御宇正元二庚申歳  
建立

開基 虎関和尚  
 境(境カ)内二百四十坪 但年貢地其外山林あり  
堂 三間四方  
本尊観音 聖徳太子作  
客殿 四間ニ二間半  
廊下 六尺ニ九間  
庫裏 七間ニ二間半

縁起云むかし一人の上人あり名を真応と云元来山人也常ニ鷹をすへ山林に入或ハ禽獸を取て殺生を業とす 或時法心を思ひ立法衣を着す 九月十一日夜<慶雲元/甲辰年>神僧を夢見る告て曰汝宿望を成就せんと思ハ  
 山に入へしと 夢覚めて独り山に入東西を不弁六日を過る身心勞れ臥て現の如くにて冷地に出る 老翁口中に水をそゝく忽に心氣募る 是より老翁誘て山を廻り観音の木像を得る 老翁教に任せ修行す 今の所を廻りしに老翁の曰此地靈地なり安鎮すへし冷水あり汝に与ふへし水なりと教て老翁ハ見へす 今の所に堂を建観音を安置す<是迄縁起の意をとる猶/委き事ハ縁起を見て知>  
<るへ/し>堂の前入口に古木の杉あり 若木の時堺谷村の百性(ママ) 稲木ニ結ふたるよし云来百拾年程に成るよし 木のう路に蛇有て木のぬしなりと云伝ふ 或時住持に尋しに蛇一疋に限らず数多出入す冬籠りと云り 又山添方旧繩手に掛る所に松有<後年水清の/大松といふ>此松五十年以前ハ廻り二尺程も可在か田の中へ横に藤掛り四五尺斗横に成其元方しん立たり 根の横に成りし所を童共馬乗にし或ハ上をふみ伝ふて遊びしかいつの程にか真直に立伸たり いつ立直りしや知る人なし 奇妙成松なり 神妙を語るハ怪けれ共奇妙者なきにしもあらず 丹波ハ丹後の元国なれハ珍ら敷事を記し置く

古来方七不思議という左之通

- 一 遊るきの松 風なきに常にゆるく
- 一 しづくの松 晴天ニもしづく落る
- 一 御用の柿 天子方御用次第柿なる
- 一 藤 正月咲く
- 一 萩 正月咲く
- 一 竹の子 正月生る
- 一 茗荷の子 正月生る

今者竹の子と茗荷斗残ハなし 今寅の正月下余部村百性(ママ) 志賀に行見たる趣直咄を聞其年二日茗荷の子五ッ生る 三日九時竹の子三本生る 毎年如何と伺ひしに数ハ定りなし兎角生る事違なしと云へり 是慥成る事なり 依て爰にしるす

佐武ヶ嶽 古城 三上相応

山上ニ城跡有土居石垣ノ形有

定免六ッ

万願寺村 高百三拾壺石壺斗三升六合  
 内拾弍石八斗四合 万定引

十三石御用捨高

古城 坂根修理

三社権現 鎮守也 不動院持

初ハ山上ニ在シ伊佐津堤騎馬ニテ通ル人度々

怪物在シトテ山下へ移ス 其後中嶋次太夫差

凶ニテ今の所中段へ移ス

万願寺 西紫雲山 不動院円隆寺末

境内二百九十坪

人王八十四代順徳院御宇健保年中建立

開基 弁円上人

観音堂 本尊十一面観音 運慶作

脇土 不動 毘沙門

熊野権現 鎮守

稻荷大明神

僧坊 九間ニ三間半

縁起之意

往古無円と云僧夢惣（想カ）の事有て丹後国の山に入 翁  
の教に由て和州長谷寺の観音像木の余りを求十一面  
観音の像を彫刻す 因茲長谷の観音一体分身とす  
于時健保六年其後此地ニ垂跡紫雲たなひく爰を以て  
西紫雲山ト号無円宿願成就せし故万願寺と号と云  
永禄年中野火に由て寺院不残焼失ス観音ハ踊り出給  
ひしとて無恙 其後知恩院円隆寺中宥宜大僧都此所  
に來り仏像を叢の中に無恙を見て取上纔に堂を建天  
和年中開帳造営し昔の万か一なり 委敷縁記別卷に  
あり

祐榮口濱に往昔此谷を不動谷と云寺中広く今の寺  
の己午の方谷合本坊にて其時の庭石今に有 坊中多  
く今者田と成田の名に何坊彼坊と其時之坊号を唱る  
なり 今の寺の下小川に小橋あり昔の二王門此所に  
在し由 村の入口制札の有所昔の惣門なる由依テ其  
辺田の名を亦惣門と呼よし

長谷寺観音ハ元正帝御宇養老五年ニ始る由 健保  
六年迄四百九拾二年に及此時迄像材不朽有し事奇妙  
の事也 健保の頃武将ハ右大臣実朝公將軍たり

俊次云六拾年斗以前今の寺の向北の方に小庵あり  
老女あり諸願之人此老女に頼めは彼老女即仏前に行  
観音ニ向ひ人に語る如く願望を云祈念す 効驗あり  
し由殊之外時在（ママ）しいつとなく水清之方繁昌して万願  
寺者淋しく成ぬ

定免六ッ

今田村 高四百八拾九石九升

内式拾三石四斗九升五合八勺 万定引

四拾五石御用捨高

倭文社 八月十七日祭 鍵取 源四郎

氏子 今田 万願寺 堀 布敷 別所 岸谷

上根 寺田 白滝 下村

十ヶ村氏神トス 今田万願寺ハ池姫ハ氏神

トセス 右之村ヨリ毎年振物笹踊狂言ヲ勤  
倭文ヲ幟ニハ小鳥八社明神ト書リ  
常德寺 仏智山 桂林寺末

定免七ッ八分  
堀村 高百八拾石三斗三升五合  
内三拾八石一斗五升二合三勺 万定引  
二拾五石御用捨高  
薬師堂

定免七ッ九分  
池之内下村 高二百七拾石四斗八升八合  
内拾四石九斗八升貳合 万定引  
拾五石御用捨高  
喜雲寺 福聚山 桂林寺末

定免八ッ一分  
布敷村 高百四拾八石五斗三升  
内十五石四斗六升四合二勺 万定引  
十石御用捨高  
池姫大明神  
堀 池之内下村 布敷 別所 白滝 岸谷  
上根 寺田  
右八ヶ村氏神毎年順番振物踊狂言ヲ勤 本祭  
ハ六月十五日夜祭 踊リ有リ 弥勤(勒カ) 堂

定免七ッ九分  
別所村 高七百七拾九石九斗五升九合  
内貳拾壺石三斗七升三合 万定引  
八石御用捨高  
高福寺 常光山 桂林寺末  
堀 別所 布敷 三ヶ村ノ寺  
安養寺 真久山 円隆寺末  
権現 安養寺持

定免十ヲ  
岸谷村 高四拾六石三斗九升  
内四斗 万定引  
長泉寺 岸谷山 桂林寺末  
観音堂  
当所先御代御鹿狩有先達為見分香谷孫九郎久  
当幸山金兵衛長政ヲ被遣出大書院絵図地形ヲ  
作り御立間士卒ノ手配リ在シ

定免七ッ八分  
白滝村 高五十五石四斗七升七合  
内四斗 万定引  
薬師堂

定免八ッ七分

上根村 高八拾五石九斗壹合  
内拾貳石三斗壹升六合貳勺 万定引  
四石御用捨高

地福寺 上根山 桂林寺末  
上根 白滝之寺

老民の云上根村に船繫と云石有 昔五呂ノ嶽大雨  
に而抜崩る 其時谷中湖となる舟を浮へり仍而名有  
此所に船繫弁財天を崇め惣名池之内と云 此所ニ  
大蛇住り或人謀にて張籠にて人形を作り内に毒を入  
池之辺りに置大蛇出て吞之忽に死す 頭ハ八面之鷹  
となる是志鳥明神也 体ハ池姫明神と崇夫ハ八ヶ村  
氏神と云々 池の谷と云所右之大蛇暫く住し所也今  
ハ田となる 太郎左衛門四良左衛門と云もの作る  
此田を植る日ハ是非雨降るといふ

定免八ッ七分

寺田村 高百七拾壹石四合  
内拾五石三斗五升四合五勺 万定引  
二拾石御用捨高

久巖寺 智泉山 桂林寺末

定免七ッ三分

上安村 高六百四拾九石五斗八升六合  
内貳拾八石六升八合 万定引  
六十七石御用捨高  
拾四石 清道江

高田明神 <七月六日夜祭 湯立斗/九月廿六日祭 湯立斗>  
東林寺 青竜山 桂林寺末

定免八ッ三分

上安久村 高二百六拾九石七斗六升  
内八拾二石壹斗壹升六合 万定引  
二拾石御用捨高

三社権現 氏神

社料少有酒ヲ作<六月十三日/九月七日>村中宴遊ス

古城 安久右京進

法音寺 海潮山 桂林寺末

安久山ヲ五呂ヶ嶽ト云 絶頂ヨリ越前沖若狭海マ  
テ見ユル 佐武ヶ嶽ヨリ高山ナレトモ道登リ安キナ  
リ

定免七ッ三分

下安久村 高貳百八拾石四斗三升九合  
内六拾五石九斗五升六合 万定引  
五石御用捨高

全輪寺 玉宝山 桂林寺末  
荒神

定免六ッ七分

和田村 高二百七拾四石九斗五升  
内五石七斗九升三合 万定引  
五石御用捨高  
観音堂 本尊千手観音 慈覚大師作  
同庵 境内長十七間余 幅十四間余  
此所古来々色々説有不審

定免七ッ七分

長浜村 高百九拾七石七斗八升壹合  
内四石二斗九升三合 万定引  
拾八石御用捨高  
高倉八幡宮 八月十四日祭 境内二拾間四方  
長浜 和田 下安久 北吸 余部下村  
五ヶ村氏神 毎年順番ニ振物狂言踊ヲ勤 九  
月十日東吉原町ヨリ振物ヲ掛ル (<注・異本ニ余ノ部上下村六ヶ>  
<村氏神ノトアリ>)

定免七ッ五分

北吸村 高二百五拾八石三斗八升  
内貳石八升貳合五勺 万定引  
二拾三石御用捨高  
阿弥陀堂

定免八ッ

余部上村 高二百九拾四石七斗壹升  
内六石四斗壹升貳合 万定引  
四拾石御用捨高  
若宮社

余部下村 高三百六拾石三斗  
内貳石五斗壹升 万定引  
四拾五石御用捨高

雲門寺 神竜山 京嵯峨鹿王院天竜寺末  
長浜 和田 北吸 余部上下五ヶ村之寺  
住持伝来書ヲ以記之  
境内沼地成シヲ山ヲ引均シ寺ヲ立ル此池竜ノ  
住シ所ト云因茲山号トス 其池ノ靈魂近キ海  
中ノ山ニ祭夫ヨリ蛇嶋ト云 境内ニ小池二ッ  
有之ヲ竜眼水ト云俗ニ蛇目池ト云

鎮海軒跡 行者屋敷跡

稻荷社 鎮守也

宝物 <国師九帳法衣ノ懷劍 壹腰>

開基人王 後光厳院応安四辛亥歳春屋妙葩和尚京  
洛東山南禅寺住職也 故有テ京師ヲ立退余戸ニ九年  
住居亦南禅寺江再住 雲門寺ハ国師草創也<開基ヨリノ三百六十>  
<四年国師滅後ヨリノ三百四十七年ニ及>春屋再住之時天下惣禄被任普明国師  
寺領元来余部ハ鹿王院領地也 国師蟄居之節半分  
雲門寺領ト成上京之後亦鹿王院領ト成 其後雲門寺

領少も無 境内山林斗京極家之時分免許也

京極飛驒守高直侯御時賢室和尚ト云住職御城之鐘之銘作 国師和田村観音江参詣杖ヲ突立置シニ根出来花咲今ノ桜木是ナリ 本木枯テ芽ヲ出シ幾度も不知枯テ芽ヲ出セトモ根ハ最初の木也 高直侯千歳村江御出之節賢室国師御供冷水ノ銘御好有貯月水ト号セラル 白杉御茶屋帰帆閣御城御茶屋紅葉亭何レモ賢室作也 其後寺年々廢シ小庵ト成 先住禅海和尚入寺後次第々々造営有是中興開山タルヘシ

定免七ツ七分

倉谷村 高六百二拾石貳合  
内九拾二石五升九合 万定引  
百五拾石御用拾高  
定免七ツ三分三厘  
高三拾石九斗 同村町分  
内三石一斗貳升七合 万定引

当村往古南の山際に有り百貳拾年斗以前北の村江移る 享保十二丁未年二月に大庄屋武左衛門依願昔の場所江引移す 百性（ママ）拾壺人引越残ハ場所無之未移らず

朝寝大明神 氏神祭<六月六日と七日 湯立斗前々ハ／八月廿五日 神楽 夜祭

>

当社ハ元来古天神の下田の中に有り 其後近所元宮と云所江移又其後東山寺の西森の内江移 是ハ百貳十年余に成 武左衛門依願今の山上に移し山を社地とス 拝殿造営同十九甲寅年二月十三日新宮江奉遷座当日神楽奉幣因茲社参群集す社参之人に饌酒饗終日宴す 元の宮跡を神領とす八畝斗之地斗代一石一斗ニ而百性（ママ）に預ケ毎年神納始終武左衛門成功なり <亀井氏なり／尾崎とも名乗>

天神宮 大泉寺持

五百年斗以前鎮座之由伝来る開基不知 正徳五乙未年徳樹院様御再興山を引均し社前広拝殿鳥居額絵馬被為掛九月廿五日祭日とし角力有近国ヲ集る 大泉寺ハ角力取雇ひ当日赤飯饗す社領壺石貳斗御寄進

天王宮 <祇園牛頭／天王ナリ>大内町山伏泉光院持<六月六日／夜祭 神楽>

天神山の上東方にあり 上安村 福来村 倉谷村 天台村の宮

濟禅宗東山寺 大竜山 西京木辻正法山妙心寺末 妙心寺開山 開山国師

当寺境内千八百坪其外山林有り 寺領四石五斗五升六合 末寺二ヶ寺有り 人王百八代後水尾院御宇元和九癸亥年開基梅天和尚

本尊 釈迦

客殿

方丈 七間半ニ五間

庫裏 九間ニ四間

禪堂 二間四方  
今觀音堂ト唱  
鐘樓  
門 二間二一間

大竜山之額堂前ニ有 佐々木万次郎筆 開山梅天和尚也 元來雲州松前の円成寺春竜和尚の法嗣也 当所京極家之臣横田某旧蔵之由依之大泉寺江来れり 京極修理大夫高三侯聞召強而止め給ふ 梅天曰一寺開基あらハ仰に従ひ可申由任望大泉寺隣山接木畑を給る 則創建す号大竜山東山寺 于時寛永三丙寅年梅天遷化ハ承応四乙未年三月十三日

京極伊勢守高盛侯代但州豊岡江所替其時檀叢和尚引越ニ付無住 其頃阿州徳島の慈光寺の旭峯和尚故有て退院丹波山家領大唐内村江来徳雲寺を建て暫時住居之所幸檀叢と法縁故東山寺江招請中興紫衣也

右記禪堂の觀音堂ハ

徳樹院様御庭の觀音堂を此所へ被移也 古來方当寺に有之觀音堂ハ其節大泉寺へ被移なり

觀音祭 七月十七日 <是を東山寺祭といふノ御家中御門留なり>

右東山寺徳樹院様御存生之節依御遺命当寺の東の山中断を引均し尊骸を奉納 御廟所出来御菩提所と成 諸事以前ニ替寺格も見樹寺之次ニ列す

濟禪宗大泉寺 曹溪山 西京木辻正法山妙心寺末

当寺境内千七百坪其外山林有り 寺領四石六斗五升四合境内共

人王百八代後水尾院御宇慶長十甲寅歳

開基 琢堂和尚

本尊 釈迦

脇立 <文殊ノ普賢>

客殿

方丈 七間ニ四間半

庫裏 八間ニ四間

觀音堂 二間四方

鐘樓 八間四方

弁財天社 三尺四方

門 二間二一間

開基琢堂和尚慶長二丁酉年細川越中守忠興侯御時肥後国方来建立之由 山上ニ古城跡有三上相応当所ニ居 本城ハ佐武ヶ嶽

定免六ツ七分

福来村 高三百八拾九石貳斗七升

内六拾三石五斗貳升 万定引

五拾石御用捨高

同村分

定免五ツ五分

高三十九石四斗貳升

内七石九升四合八勺 万定引

八幡宮 鍵取 五郎兵衛



薬師堂 大泉寺  
薬王寺権現 氏神祭 <五月廿八日/九月廿八日>  
村ノ入口小キ森有大内介廟所ト云伝 此村ニ前方  
浄土寺有町江引 後跡ハ墓所或畑ト成

定免九ッ三分

天台寺村 古五十里村ト云 高百六石五斗八升  
内六石三斗六升 万定引  
九石御用捨高

三大王子 氏神

武庭権現 祭九月六日

山上ニ祭金毘羅大権現 祭三月十日 十月十日

山王大権現

加利帝母

右三座一社ニ祭山王権現ノ宮地也 金毘羅権現加利  
帝母ヲ後ニ合祭故山王権現ヲ真中トス 金毘羅ハ  
新ニ讚州ヲ遷ス 加利帝母ハ鬼子母神也

右之説ハ御当代寛政十一年己未年御参詣之説承之  
故記シ置

天台寺 青葉山 江州三井満徳院兼帯寺

松尾寺ト山号同シ但松尾ハ青葉ヲセイヨウト  
唱フ

開基ハ退転之寺故時代難知

中興開基 大僧都実範

本堂 慶安元戊子年京極飛驒守高直侯再興有  
所寛文年中焼失ス 仍御家ニテ唯今之  
通御建立也

本尊 釈迦

脇立 聖観音 不動明王

客殿 八間ニ六間 今四間ニ六間

本尊 阿弥陀如来

毘沙門

元三大師

三宝荒神

庫裏 八間ニ三間 今三間ニ四間

門 二間ニ一間半 今一間半ニ一間

塔頭 <正覚寺/郷学院>

古来山伏四拾八坊後世三ヶ所 今二ヶ所

境内三千六百九十坪其外山林寺領境内四石八  
斗

蔵米拾三石七斗

拾八石五斗之内 一石堂料

二石五斗山伏分

判持

一 寺領分之事

一 同屋敷分之事

一 山林竹木之事

右如先規令寄附畢不可有相違者也仍如件

慶長七年

(花押)

細川幽齋卿 (京極高知カ)

十二月三日

御筆ト云伝

天台院

右同断

寛永三年

(花押) 京極飛驒守

二月十五日

高治(高三) 侯

天台院

京極飛驒守高直侯御代明曆二丙申年七月御靈屋一  
宇建立三井寺江住職被請依之満徳院実範来住ニ而三  
井寺兩寺兼代在天台院モ満徳院ト改天台ハ寺号ニ成  
寺領御仏供兩共ニ三十三俵寄附二代目モ満徳院方入  
院三代目摂州地福院弟子隆範今回ヨリ来住四代目当  
住吉野山之寺僧持福院ヨリ来住御靈屋前代護摩堂之  
東ノ方ニ在 寛文年中出火類焼御当代今之所

本堂脇立観音ノ由来ハ古来京都町人何某之妾尼ト  
成 常ニ観音ノ像信心スル事年久シ 卒後娘松ト云  
年若ニ而信心モ無ク併老母日頃信心セン仏故不沙汰  
ニモ難成或時ニ出入ノ木綿商人ニ語テ此仏像可然所  
江遺度由ヲ云 木綿屋幸ニ三井寺日光院僧正江立入  
ニ付被仏ヲ持行テ日光院江納ル 于時元禄二己巳年  
三月天台寺本尊開帳ニ付日光院ヲ詔請読経アリ 釈  
迦ノ開帳ハ不珍トテ日光院彼ノ観音ヲ持参本尊ノ脇  
立トシ観音開帳有シ也 此時肩替ニ而願ヲ立テ京都  
ヨリ歌舞伎来ル

森村 高七百四拾壹石九斗五升

内十六石壹斗六升三合二勺 万定引

八十石御用捨高

愛宕社

正一位大森大明神 祭六月十四日方十五日

鍵取 善太夫

巫 善右衛門 女房

森村 行永村 浜村 替々振物ヲ掛ル也

細川幽齋卿御時代社領百石有之由 神主モ<出雲ノ薩摩>ト  
テ有シ由右社人末流小左衛門伝記也 是出雲末流也  
薩摩ハ絶無

当社小野木兵乱ノ頃破却依之京吉田家江願勸請ナ  
リ 兵乱ノ節巫神体ヲ負奉他所へ逃行ケルニ叩(崇カ)有故  
立帰り古宮ニ来ル 其翌京都ヨリ八幡勸請御沙汰濟  
兩社造営ス 正一位ノ末社二十一社ナレトモ今ハ跡斗  
残造営後掃溜ノ内ヨリモ額ヲ掘出ス

近衛殿御筆也則社内ニ納ム 今ノ額ハ中山素竹翁  
筆之由

長雲寺 竜勝寺末

古城 高橋左京

行永村 高千六拾七石五斗四升九合

内三十九石一斗六升七合三勺 万定引

百五十石御用捨高

同村之内

二石一斗八升三合 万定引  
古城 黒川丹波 一説ニ一色太郎トモ云  
竜勝寺 瑞雲山 京大和 大路東福寺末  
寺領三石八斗四升境内共 境内 千五百坪  
開山 方鏡和尚 中興開山 古月和尚  
後柏原院御宇 永正二乙丑年也

当寺ハ尊氏公御代嵯峨天竜寺建之節之事ニ而此国  
主御茶屋ヲ後ニ寺トナス由 天竜寺本願ハ足利尊氏  
公後醍醐帝為追福御建立有シ也 開基夢想也觀応二  
(年・脱カ) 九月三十日寂ス此所山上ニ古城跡有 細川家上羽丹  
波居于今子孫アリ

本尊 阿弥陀 勢至 各恵心作  
仏殿 三間四方 今禅室ト唱本尊三尊弥陀  
方丈 七間ニ五間  
庫裏 六間半ニ四間半  
鐘楼 九間四方  
門 二間ニ一間半 門ヨリ堂迄道五十間  
地藏堂 二間四方 小野篁作  
怡雲庵 当村竜勝寺末  
養浩庵 大興庵 報恩院  
右三ヶ寺塔頭ノ旧跡有リ

定免六ッ九分

溝尻村 高四百七十二石八斗  
内二十三石五升六合九勺 万定引  
四十五石御用捨高  
清光庵 菴中ニ地藏有 七月廿四日角力有  
雲門寺末

貴布祢明神

氏神元来正一位の宮成しか或百性(ママ)京江上り貴布祢  
の神を勧請申帰村に祠を建たり 後々村中尊敬し正  
月に者家々に松にて嶋の形を作り藁ニて鬼を拵祝ふ  
也 昔鎮西八郎為朝嶋江渡り鬼を退治平安成なせし  
因縁を云伝ふ

此事ハ貴船勧請せしものの縁者の者に聞たり

定免七ッ五分

堂奥村 高四百四十九石二升八合  
内十八石七斗一升五合九勺 万定引  
五十三石御用捨高

樹徳院 雲門寺末

山之口社 八月朔日祭角力有<堂奥村ノ多門院村>ノ氏神  
元文二年春宮津白カシ町加右衛門と云者の野田去  
年の水にて山崩れたり 此度地を平均申候処土中  
より鱈口を掘出す 銘有り田辺山口大明神と在之ニ  
付其後嘉右衛門田辺引土町六兵衛と云者に右之段語  
り双方上江無沙汰ニ而遣申度由 六兵衛堂奥江知ら  
せ掛合ニ而貰申候由

鱈口ノ銘

丹後国加佐郡倉橋郷祖保谷村 山口大明神  
曾此ノ字違シカ此脇ニ彫付有  
文安二十一（ママ）月廿一日 勸進聖道仙敬白  
年数元文二年迄二百九十三年及

天神社  
荒神社  
薬師堂  
八幡社

定免八ッ四分

多門院村 高二百九十二石三斗七升  
内十七石八斗四升八合二勺 万定引  
八石御用捨高

興禅寺 雲門寺末  
毘沙門堂 二ヶ所 鹿原山金剛院預リ  
若宮社  
愛宕山  
荒神芝社  
地藏堂

与保呂村 高四百六拾石九斗三升六合  
内六拾八石一斗九升四合七勺 万定引  
十二石 御用捨高

報恩庵 雲門寺末  
弥陀堂  
池姫明神<与保呂・木之下ノ常村ノ氏神> 鍵取<田村甚兵衛ノ木之下村孫兵衛>

定免七ッ九分

木之下村 高二百六拾四石九斗二合六勺  
内拾六石壹斗三升七合 万定引  
二拾八石御用捨高

薬師堂

定免七ッ四分

常村 高三百九石四斗三合四勺  
内二拾四石七斗三升九合六勺 万定引  
四拾石御用捨高

福聚庵 竜勝寺末  
荒神

定免八ッ五分

浜村 高五百七拾六石二斗二升八合  
内二拾二石三斗六升九合六勺 万定引  
三拾石御用捨高

古城 <三島外記ノ桜井左京>  
稻荷社  
恵比須堂  
水無月明神 六月晦日祭  
得月庵 雲門寺末

愛宕

戌亥の方にあり 昔西村何某の男古城の跡に遊ヒ  
俄に物狂ひ飛廻り口はしり云事無舌不通 折節松尾  
大門坊大峯の出掛当村を通る 是を頼みて祈るに童  
子の舌和き明かに詞も聞へ語りていわく我ハ此杉山  
の神なり祭る人の為に可為守護となり 仍而草社を  
営み祭此童後に山伏となり延寿院被移る

杉山祭 <七月廿三日日尽シ／八月廿四日護摩供>香花勤行 延寿院ヲ執  
行

定免九ッ三分

瀬崎村 高百二拾九石七斗九升六合

内六石御用捨高

正八幡 氏神 鍵取 <五郎左衛門／与右衛門>

三輪明神

正伝寺 金剛山 海臨寺末

定免九ッ四分

大丹生村 高百四拾九石六斗八升四合

内四石七斗二升六勺 万定引

十石御用捨高

洞春庵 海臨寺末

山王 氏神

熊野権現 氏神 鍵取 次郎左衛門

大將軍

稻荷

荒神

牛頭天王

定免八ッ

千歳村 初波作美村ト云

高八十三石三斗九升六合

内四石御用捨高

当村庄屋孫左衛門幽齋卿方九寸五分の刀を拝領す  
行平作 大守御代目／＼差出ス 入高覽金百疋宛被  
下置前々方拝領の品不残所持す 其内銀壺歩弐ッ京  
極飛驒守高直侯方拝領之由

古城 備後

天神 氏神 鍵取 惣右衛門

大將軍 氏神

八幡

稻荷

荒神

一宮

恵比須

弥陀堂

養徳寺 海臨寺末

本書文

千歳 南磯辺之松也

天照太神

忍耳尊千歳御在位有シ所也ト古書ニ見ヘタリ 岩  
組見事也 荒磯也 獅子ヶ鼻獅子ニツ有カ如ク自然  
石久志渡ヲ千歳ト云泉水石小嶋石築山ノ如ク鷹岩星  
ノ如見ユル 猿石犬石ニ神石是ヲ在家ノ者毘沙門石  
ト云 二体向合有何レモ自然石ナリ 土モ無キ放レ  
タル岩ニ見事成松有所モ有景色難及筆墨

定免六ッ

佐波賀村 高九拾貳石八升  
内貳斗五合三勺 万定引  
四石御用捨高

八幡宮

天神 氏神 鍵取 才右衛門  
蔵王権現 <額ハ持明院殿ノ御筆也> 氏神 同 十郎左衛門  
清林寺 経応山 桂林寺末  
古城 桜井志摩  
本書之文

磯辺名水有吐月水天正ノ比此所住人佐波賀十郎左  
衛門強弓勢之由 蛇島 内海ニ有島也逸見駿河守在  
城ト云若州武田ノ一族也 玄蕃頭譜代トシテ爰ニ駿  
河守ヲ置ト云天正之頃之事也

徳樹院様被為入御茶事ノ節清水ヲ吐月水ト名付給  
ふ 当御代寛政十一年未年四月廿三日被為入仮屋ヲ  
掛御茶事有之 右清水之銘御沙汰有之吐月水之事村  
役人申聞宗啓承ル

烏帽子島 水島碓之亟住居 クリト云岩 三本松  
雷盆ウツムケタル如ク嶋ニ松鼎ノ如ク有

定免八ッ四分

平村 高四百四拾九石三斗二升四合  
内八石四斗三升四合壹勺 万定引  
五拾五石御用捨高  
正八幡 <中田 多祢寺ノ赤野 平村> 氏神 鍵取<甲左ノ次右衛門>  
長雲寺 供松山 桂林寺末

定免八ッ三分

赤野村 高百五十石壹斗六升  
内壹石七斗八升一合七勺 万定引  
四石御用捨高

荒神

当村巨勢金岡屋敷跡有 伝云姓ハ巨勢宮大納言無  
位階自然臻丹青妙学呉道子筆法及精佛像仁和四（年・脱カ）九月  
五日賜詔

宇多帝画賢聖図和国之名筆也 略ス

定免八ッ五分

多祢寺村 高七拾七石九斗二升  
内六石六斗 万定引

十八石御用捨高  
住持伝来写縁起ハ秘メ不出  
多祢寺 西藏院 医王山 慈恩寺金剛院末  
地領地方六石壺斗二升境内トモ  
境内三千六百坪 其外山林有  
中田 赤野 多祢寺ノ寺  
人王三十一代用明天皇即位二年王子麻呂又金  
麻呂トモ其草創也 王子金麻呂親王トモ云フ  
欽明帝二十六乙酉トモ  
本堂 五間四方  
僧坊 方丈 五間ニ四間半  
庫裏 四間ニ六間  
僧坊 六間四方  
威光院 今ハ無寺  
本尊護身仏 定朝作  
本尊薬師 麻呂子作  
月光 日光  
十二神  
熊野権現 鎮守  
荒神  
弁財天  
地藏堂 西南ニ二軒  
権現祠 奥ノ院二十丁上ニ有  
金岡堂 坂本ニ有 本尊不動明王  
毘沙門 是迄不殘定朝作  
二王門 画像運慶作 三間ニ二間  
薬師堂

当テ桓武天皇御宇歴百九拾六（ママ）年奇世上人住于此山  
于時延暦元壬戌年五月天皇有御腦（悩）遙奇世上人詔抽丹  
誠符薬師神呪奉香水勸慮忽快依之得帝力之余裕山中  
再復旧觀是以中興開山トス

定免八ッ八分

三浜村 高百五拾七石五斗六升  
内二石八升三合 万定引  
十石御用捨高

若宮大明神  
松原大明神 氏神 鍵取 藤左衛門  
海蔵寺 得雲山 海臨寺末  
三浜 小橋ノ前ニ桂嶋トテ見事成島有此兩村  
ニテ鱸取ル

定免八ッ三分

小橋村 高百二十八石三斗六升  
内四石七斗七升七合三勺 万定引  
二拾石御用捨高

愛宕  
若宮明神 氏神 鍵取 祝主  
海嶺寺 光霽山 海臨寺末

定免八ッ

野原村 高百六拾七石八斗九升  
内九石二斗六升六合二勺 万定引

三拾五石御用捨高

瑞雲寺 遊竜山 海臨寺末  
若宮明神 氏神 鍵取 仁右衛門  
天神宮 氏神正八幡 氏神

海中沖ノ島

老人島明神 三浜 小橋 野原ノ氏神

同瀬ノ御前

恵比須

荒神

愛宕

沖の嶋に毎年集巢を成す名巢也 巢ハ山上の崖ニ  
在りて人足不及所也窟の内に在り上方もつこうに乗  
せ繩を付下し子巢を取 其取去に七斗三升壺合米を  
被下古例なり

三浜 小橋 野原

定免八ッ四分

成生村 高三十壺石六斗六升  
内九石御用捨高

山神

荒神

大將軍 氏神 鍵取 五兵衛

西徳寺 明雲山 海臨寺末

当村ニテ鰯鱈或ハ鱸ヲ取 宝永戌年大地震夫ヨ  
リ不捕近年又多取運上ナシ 御用次第一本四匁三分  
ヅツ

田井村 高百六拾七石壺斗九升  
内十三石五斗四合 万定引  
三拾貳石御用捨高  
二拾石免下御介抱

成生嶋

黒地嶋 汐時不構岸深舟掛吉シ成生嶋ヨリ内ノ  
方也

毛島 田井成生ノ間ニ有 巢巢ヲ成ス名巢

海臨寺 瑞光山 京大和太路東福寺末

地領七石壺斗二升六合境内トモ

境内三百八坪其外山林

人王百代後小松院御宇至徳三丙寅年建立

開基 曇翁源仙和尚

末寺十二ヶ寺有

本尊釈迦 安阿弥作

弁財天社 鎮守 二尺四面

方丈 七間ニ五間

庫裏 四間ニ四間



中門 一間半  
惣門 一間半四方 通間七尺  
西峯寺 広峯山 海臨寺末  
正八幡 氏神 鍵取 藤兵衛  
愛宕  
天神  
毘沙門  
水ガ浦 田井村之小名  
稲荷  
大神宮  
若宮  
恵比須  
馬立嶋 隼ノ巢ヲ成ス所 名隼  
兜岩 丹後若狭ノ境宮津ノ十一里十丁南東乙見 (現・音海)  
迄ハ丹後内也 笹部ノ内乙見ノ出崎也

大山村 高百八拾貳石六斗七升  
内貳拾貳石九合九勺 万定引  
四拾八石御用捨高  
定免七ッ四分  
七拾壹石七斗六升五合九勺村分  
五石八斗九升四合田井村名負

枳尾村 高貳百五拾三石壹斗四升三合  
内貳拾四石三斗三升三合九勺 万定引  
三拾石御用捨高  
極楽寺 歛谷山 海臨寺末  
愛宕 氏神 鍵取 横森  
原村 高百九拾五石四斗九升  
内四石貳斗八升六合 万定引  
五石御用捨高  
古城 小タン  
本源寺 歛得山 海臨寺末  
山神

定免五ッ壹分  
観音寺村 高七拾壹石五斗六升  
内拾四石五斗四升八合 万定引  
四石御用捨高  
真言宗観音寺 補陀落山 華蔵院 円隆寺末  
寺領七石貳斗三升 境内トモ  
境内三千五百三十坪 其外山林有リ  
華蔵院伝来ヲ記ス  
開基伝教大師  
人王五十代桓武天皇御宇延暦年中草創 其後  
及大破永徳年中<元年ヨリ九百ノ五十二年ニ及>法爾上人堂塔再  
建東山称開山  
西屋 室牛 由里 観音寺 四ヶ村ノ寺  
本尊 千手観音 行基作

本尊 大日如来 慈覚大師作  
三重塔  
貞治年中建立古重也 上二重亡失 下一重  
斗残 二間四方  
僧坊 四間ニ五間 今方丈  
庫裏 四間ニ七間半  
鐘楼 八尺四方  
坂中堂 九尺四方  
坂元堂 二間四方  
荒神  
千手観音

室牛村 高百貳拾八石壺斗貳升  
内拾石八斗四合九勺 万定引  
三拾石御用捨高  
定免五ッ五分 六拾石七斗六升壺勺村分  
定免七ッ三分 貳拾六石六斗五升五合近在入高

山神  
荒神

定免六ッ三分  
河辺由里村 高百三拾五石九斗三升  
内三石八斗三升貳合六勺 万定引  
四拾三石免下御介抱

若宮明神  
荒神  
山神

当村ニ矢竹有リ 昔源三位頼政禁庭ニ鶴射タリ  
シ矢ハ爰ヨリ出タルト云伝ヲ今ニ節景（ママ）ニテ二本宛同  
節ニ並ヒ生ス 昔此所頼政ノ領地ニテ有シト云伝モ  
有

西屋村 高百九拾四石七斗六升  
内拾貳石七斗八升六勺 万定引  
四拾石免下御介抱

古城 イセキ  
牛頭天王 <鍵取 井上ノ巫 孫六母>  
荒神

定免七ッ八分  
河辺中村 高貳百拾六石貳斗二升  
内拾九石六斗貳升 万定引  
五拾五石御用捨高

千手院 海臨寺末  
正八幡 鍵取 新井  
<中村 西屋 室牛ノ由里 栃尾 原>六ヶ村ノ氏神  
御上御巡見之節ハ獅子ヲ舞シ入御覽  
白髭神社  
恵比須

鍛冶屋明神  
荒神  
天神

定免八ッ

中田村 高百三拾四石九斗八升  
内貳拾壹石六升九合七勺 万定引  
九石御用捨高  
荒神  
才神

大波村 高五百六拾四石九斗七升三合  
内七石七升九合八勺 万定引  
八拾五石御用捨高  
青蓮寺 安慈山 京東福寺末  
熊野権現 氏神 鍵取 孫助  
天神  
薬師堂

定免七ッ六分

朝来中村 高貳百四拾石五斗  
内八石六升九合九勺 万定引  
四拾五石御用捨高  
正徳庵 海臨寺末  
東光寺 倉谷山 海臨寺末  
田之口大明神 <大波 下谷 白屋／中村 長内 岡安>六ヶ村氏神  
鍵取 <大波村 芝原／下谷村 四郎左衛門>  
弁財天社  
牛頭天王  
薬師堂

定免七ッ

白屋村 高貳百壹石七斗八升  
内三石九斗六升六合貳勺 万定引  
五拾五石御用捨高  
山王権現

定免六ッ七分

長内村 高五拾石五斗三升  
内三石四升六勺 万定引  
七石御用捨高  
長寿庵 海臨寺末

定免五ッ

岡安村 高九拾石  
内壹斗五升 万定引  
貳拾五石御用捨高  
養源寺 海臨寺末  
白屋 岡安 登尾之寺

定免六ッ

登尾村 高貳百六拾三石八斗壹升  
内拾貳石三斗七升八合 万定引  
五拾石御用捨高  
經所大明神 氏神 祭九月十五日  
只今ハ八幡宮ト唱由

定免八ッ四分

笹部村 高三拾一石八升  
内壹石四合 万定引  
貳石御用捨高  
昌源庵 海臨寺末

定免九ッ

杉山村 高百貳拾四石  
内壹石七斗壹升 万定引  
貳拾七石御用捨高  
高秀庵 海臨寺末  
熊野三社権現 上ノ宮氏神  
同 下之宮

定免六ッ五分

下谷村 高貳百四拾石  
内貳石貳斗壹升四合五勺 万定引  
四拾三石御用捨高

定免十ヲ二分

松尾村 高九拾石七斗  
内貳拾貳石七斗五合 万定引  
拾貳石御用捨高  
真言宗遍明院青葉山松尾寺 本寺上醍醐 三宝院門跡  
寺領貳拾壹石九升 境内山林竹木免許  
寺僧云縁起雖在之若州ヨリ認来不委大永四甲申年  
鏡尊坊乘秀<六十ノ四才>記置タル書面之由写之左之通  
人王六十代醍醐天皇御宇延喜元辛酉年  
本尊觀音影向青葉山権現勸請  
其頃北ノ麓ニ壹人ノ漁夫春日性（ママ）惣太夫為光ト云若  
州甲野浦ノ人也常ニ觀音ヲ信シ日々觀音經ヲ誦誦ス  
一日惣太夫強風ニ吹放サレ乗タル舟損ス 然時浮木  
流レ来ル為光是ニ飛乗命無恙シ ツミノ浜ニ寄此浮  
木ヲ取上持チ甲野浦ニ帰ル 其通スカラ光有テ昼ノ  
如シ 翌日置タル所ニ浮木不見怪思ヒ尋ルニ人告テ  
曰白馬來リ負テ行タリト云 因茲馬ノ爪跡ヲ尋行見  
ルに当山ニ在リ 仍テ為光爰ニ草庵ヲ結居其後天童  
降告有故此木ニ觀音三体彫刻壹体ハ讚州四渡寺ノ觀  
音 中ハ当山ノ尊像 三ノ切ハ若州青松山中山寺ノ  
尊像也 中山寺モ当寺ノ別レ也  
境内千百九拾字八坪

人王六十六代一条院御宇正暦年中御草創  
正暦五年ニテ長徳ト改元自是七百四十五年ニ  
成

鎮守社 三間ニ二間 雨宝童子

荒神

弁財天社

本堂本尊 馬頭観音 丈三尺二寸北海方出現

本堂 五間四面 享保十五庚戌年再興

三十三所順礼二十九番之札所也 二十五年目ニハ  
開帳有 毎年四月八日会式也 中ニ観音ヲ置 大日  
弥陀 釈迦 六体ノ仏面ヲ当テ仏舞在リ 皆此寺中  
山伏勤ム 是ヲ松尾祭ト云習ス

方丈 七間ニ五間

庫裏 七間半ニ四間

摂待堂 四間四方

鐘楼 九尺四方 焼失後仮立

二王門 三間ニ二間

門 二ヶ所

塔頭 二ヶ所今無之

弥山鎮守

六所宮 <白山権現/富士浅間/熊野権現> <二間/半ニ/三間> <華表一間

半境内山/内ニ有>

弥山江寺ヨリ廿八丁有リ 籠堂山王上八九分目ニ  
在リ火ヲ改精進潔濟シテ登山ス 松尾寺ノ奥ノ院也  
東西式ヶ所ニ弥陀ヲ安置ス 東若州領中山寺ノ奥ノ  
院ナリ

大川大明神 聖ノ森トモ云 二尺五寸四方

中興 御建立ハ後鳥羽院御宇文治年中惟尊上人再興

文治五年ニ建久ト改元自是五百五十年ニ及フ

焼失再興堂狭(狭)ク成ル

本堂 七間四面 鎮守并拝殿三間

五重塔婆

二階鐘楼

阿弥陀堂 五間

常行同

薬師堂 三間

地藏堂 三間

一切経蔵

二階中間

食堂

浴堂

寺中院主

西方寺 不動院

谷ノ坊 薩賢 阿加井坊

岩本坊 南ノ坊 賢識

上ノ坊 池ノ坊 二王坊

往古坊中五十一ヶ寺 其後二十五坊

古来ヨリ宝物

一 金ノカイコ 何ノ時代ニカ紛失ス

- 一 金ノ松笠 〃
- 一 中将姫織給ふ観音經
- 一 神功皇后御震筆
- 一 三条小鍛冶作之劍 当時クリカラニ用  
当時寺僧五ヶ所境内地之外ニ付  
実相坊 桜本坊 北之坊 池之坊  
円藏坊焼失後無住

定免九ッ二分

吉坂村 高百七拾壹石三斗八升八合  
内三石九斗九升五勺 万定引  
式拾式石御用捨高  
白鬚大明神 鍵取 市郎左衛門  
稻荷大明神 称宜 太郎太夫  
当時山ノ尾中段ニ高サ壹丈斗切立タル如ク見  
事成ル岩有リ 其内ニ靈狐住リ岩宇呂三太夫  
ト云是ヲ祝フ

定免六ッ

鹿原村 高三百七拾石六斗四升  
内三拾九石壹斗壹升壹合 万定引  
五拾石御用捨高  
荒神社 鍵取 市兵衛  
山神社  
徳藏院 鹿母山 南禅寺末 <鹿原村／吉坂村>ノ寺  
始終住持伝来ヲ記ス  
慈恩寺 鹿原山 金剛院  
寺領式拾石八斗七升八合  
境内千八百式拾五坪 其外山林  
縁記紙面  
人王五十一代平城天皇王子高岡親王<法名真／如法師>出家廻  
国此山ニ至草創也 于時淳和天皇御宇天長六己酉年  
建立号金剛院九百六十年ニ及  
寺之境（ママ）説云 高岡親王京都ニ御座時鳳凰鳴其声善  
哉／＼ト鳴飛行跡ヲ慕ヒ給ふニ丹後国鹿原山ニ至山  
ニ宿ス 七日七夜鳴昼ハ善哉夜ハ怪去／＼ト鳴依是  
相応之勝地トテ開給フ鳴声薰甚敷由  
弁財天 高野山ヨリ勸請開基相繼之所山上ニ有  
リ  
此外中興建立  
当時ニ楓多シ色ハ不勝黄葉多シ  
大日堂 三間四面  
地藏堂  
高岡親王戒名真如法師初ハ東大寺ニ居給ヒ後高野  
山ニ住シ給ヒ其後入唐  
人王七十二代白河院永保二壬戌年高岡親王創建ノ  
跡ヲ尋神社仏閣荒タルヲ修補シ給フ是中興開山也  
此年大旱也 四月方七月迄雨不降諸事雨ヲ祈レトモ  
不降 当寺ニ詔シ給ヒ雨ヲ祈ル七日目禱結願ノ日大

雨天下ヲ潤ス 亦同年御惱（惱）有諸寺諸山丹誠ヲ尽して  
驗ナシ亦当寺ニテ祈之其驗無ニヨリ衆僧相議シ若州  
辺ニ有不動明王勸請シテ祈祷ス 于時永保二壬戌年  
九月廿八日明王ヲ鹿原ニ移ス 此作無動寺ノ相応和  
尚彫刻三体ノ内也 悪魔退治ノ法ヲ祈ル御惱（惱）忽平愈  
シ給フ依而新ニ不動ヲ安置ス

本堂 <本尊阿弥陀 安阿弥ノ作ノ不動明王 相応和尚作> 五間四面  
往古阿弥陀ヲ本尊トス 白河天皇勅願以後  
不動ヲ本尊トス

護麻（ママ）堂 三間四面

二階鐘楼 二間四方

鐘ハ金崎ノ海ヨリ上リタリシ由金崎ノ銘有  
リ

金崎ノ海底ニ今モ鐘有由地ニ耳ヲ当テ聞ケ  
ハ鐘ノ響有由 長浜ノ沖ニモ鐘有テ夜更ケ  
テ海上ニ灯火見ユル村ノ者是ヲ灯明ト云

拝殿 掛作 鎮守拝殿也 三間四方

食堂 廢ス

浴堂 廢ス

荒神社 時代不知 三尺ニ二尺

熊野権現 同 三間ニ二間

伊勢大神宮 同 五尺ニ三尺

三重素塔 同 三間四面

二王門 <三間ニ二間 二王門ヨリ本堂迄ノ二丁半 二王門ハ安阿弥作>

方丈 九間ニ六間 今七間半ニ五間

庫裏 七間ニ五間 今六間四方

塔頭 今無之

十二坊舎

此時寺号ヲ慈恩寺ト名付慈悲ノ恩沢故亦諸堂修理  
衆僧供領ハ志樂ノ莊ニ於テ被為寄附御祈願ノ勅書勅  
願明白也 是中興開山也 亦次ニ近衛院御宇久安二  
丙寅年<五百八十ノ九年ニ及>美福門院靈仏奇瑞ノ事被及聞召高岡  
親王ノ草創白河帝ノ中興有由所トテ新ニ弥陀ノ像ヲ  
安鎮シ造營有リ 平忠盛奉行タリ 今本堂也

光嚴院御宇制札

禁 制

丹後国志樂庄内鹿原山

金剛院 美福門院御願書

右至于当庄内地頭下司以下人々等

任自由彼寺山木切取輩背勅制

然者可処重科之状如件

元弘三年六月 日

昔境内湯舟山城ヶ尾山ヲ限ル近年細川家山門切ニ  
仕給 城ヶ尾古城小松殿嫡子三位中将惟盛爰ニ居給  
ふ

細川家之時下馬札給ル于今在之

宝 物

一 五色仏舍利 三粒

一 五筆不動尊 一軸

- 一 鳥羽僧正不動尊
- 一 氏信筆藥師十二神
- 一 大師御袈裟
- 一 後鳥羽院勅額 建久戊午年被為掛  
五百四十九年ニ及
- 一 光嚴院御宇 <元弘年中山林制札 四百四年ノ此年正慶 改元>
- 一 唐筆数多有之
- 一 藤孝卿 忠興卿御自筆制札  
寺中 福寿院 周快藤ノ坊 橋本坊  
医王山 多禰寺 西藏院  
末寺由良山 如意寺 <由良ヶ嶽 虚空蔵別ノ当虚空蔵嶽トモ云昔長ノ福  
寺ト云>

笠松山 泉源寺 智性院 愛宕山  
松尾村ノ市場迄志樂荘ト云 元来日下部村ト云  
古来奈良西大寺領地也 収納物相滞ニ付一色左京  
太夫ヲ頼田中ノ大島但馬ヲ頼テ納米取立奈良ニ送ル  
然所勞而無功故後ハ但馬押領ス 其後大島御家人ト  
成故領地替ル

- 一 高岡親王貞觀三年上表奏事渡海入唐羅越  
国逆旅遷化  
高野山宿坊 西谷院 報恩寺  
荒神社  
山神社

定免八ッ六分

小倉村 高三百六拾六石壹斗六升  
内五石五斗九升八合九勺 万定引  
七拾五石御用捨高  
桂昌庵 徳蔵院末  
若宮八幡宮 <神体衣冠ニテ三体有村ノ云ノ伝ニハ三位中将小松殿ト云>氏神  
正一位一ノ宮大明神 氏神  
鍵取 <田中村 八左衛門ノ巫 同十右衛門 女房>  
鹿原 小倉 田中 吉坂 安岡五ヶ村ノ氏神  
老民ノ説  
正一位ノ宮ハ元来田中村ニ有 後小倉村富山天王  
地ニ勸請ス 神主ハ田中村ノ住甲斐子孫于今有之宮  
開基不分明 小倉村江遷座之事文安年中ト書付在之  
由  
古山牛頭天王一ノ宮末社 <宮守 小倉村孫太夫ノ巫 同人女房>

定免七ッ

安岡村 高貳百六拾六石八斗八升  
内七斗五升 万定引  
五拾五石御用捨高  
少林寺 常樂山 京東福寺末  
荒神社

定免七ッ

田中村 高三百六拾石三斗四升



内拾石九斗三升九合一勺 万定引

七拾石御用捨高

金竜寺 筑波山 海臨寺末

鈴鹿権現 田中村之内下村氏神

山本明神

古城 山本掃部 其末流 <彦左衛門／五郎左衛門>ト云

本書之文

志樂大明神

箭取権現

登尾村安岡村之間ニ昔池有大蛇住泉源寺之御靈之  
宮是ヲ射給ふ 其矢ヲ直ニ大蛇ノ頭ヲ踏ヘテ抜給フ  
ト也 白屋村ニ有六地藏ハ御靈之社ノ倍臣ニテ大蛇  
射ラレテ逃ヲ追掛毒氣ヲ吹掛ラレ死セル由其物ノ印  
ニ六地藏ヲ建タリ 右ノ池今ハ田ト成登尾安岡之間  
ニアリ

山上ニ古城 大嶋志摩守道育居城 長浜弁財天嶋  
ノ城モ持之 久美ノ伊賀旗下ニテ南都門主伊賀ニ預  
ケラル 春日（日・脱カ）郷ノ代官ト云

定免八ッ二分

泉源寺村 高五百四拾石五升貳合

内拾石三升貳合 万定引

七拾五石御用捨高

古城 粟屋丹後守 信長公御代 矢野藤市

智性院 笠松山 泉源寺 金剛院末

竜興院 日円山 徳蔵院末

愛宕権現

白山権現 愛宕末社

熊野三社大権現 氏神 鍵取 智性院

御靈明神 氏神

八幡宮 市場村 氏神

淵島八幡宮

地藏堂

●下卷

後撰津守

佐馬権頭 源朝臣 頼光

後丹後守

右京権太夫 藤原 保昌

初 源次

滝口内舎人 渡辺 綱

初 六郎

勘解由判官 卜部 季武

初 金太郎

主馬佐 酒田 公時

初 荒太郎

鞆負尉 碓井 貞光

正暦元年三月廿五日

本書分

二瀬川 <宮津之事ナカラ／本書ニ任ス>

昔武将六人悪党退治トシテ山伏ノ形トナリ此谷ニ  
分ケ入給フ 美麗上臈ノ血汐ニ染シ衣ヲ洗ヒ給フニ  
逢 鬼神ニ従フ姫カ此所ハ何ト云ソト尋シニ彼女臈  
返事ハ無クテ

大江山千原ヲ過ルタ立ニ渡リソ副ルニ瀬川哉  
頼光聞シ召姫ノ父ハ誰人ソト尋給ヘハ堀川黄門之娘  
也ト答給フ 又鬼住窟ヲ尋給ヘハ姫君夫ヨリ千丈ヶ  
原大江山ノ住所ヘ道引シ給フ

千丈ヶ原

温江村ノ者外宮内宮ヘ参ルニ大江山ヨリ千丈ヶ原  
ヲ越ニ瀬川ヘ出ル難所ニテ風強ク木モ不生所也 児  
童婦人老人ハ丹波ノ天坐村ヘ廻リ出ル也 大江山ハ  
樹林ニテ少し低シ 千丈ヶ原同シ山ナレトモ高ク風烈  
シ禿山ナリ 裾ハ加佐郡ニ掛ル

仏性寺村

如来院 鎌倉山

摩呂子王子鎌ト乗鞍ヲ残シ置給ヒテ于今在リ

河守

古城 上原徳寿軒居城也

細川藤孝丹後入国之前方降参ス故旧領如以前  
被下 居城ハ其後京極ノ時代家臣岩崎豊後居城  
也 今ノ茶屋ハ館ノ上ノ山也

青園寺 鎌鞍山 四徳院トモ云

丹後七仏薬師ト云像有 金丸親王御一代御働繪  
図ニ卷悉ク書此寺ニ有 大江山岩穴鬼賊楯籠山  
ノ木ヲ切ラシメ窟ノ口ニ詰テ焼殺シ給フト云

内裏屋敷

金丸親王三年御座有シト云

真井原

丹後ノ内ニ同名三ヶ所根本比治山ナラン 国分  
未無之國ニ名モナキ神代ノ内丹後五郡ノ惣名ナ  
ラン 神書ニ比治ト府中ト河守ト三ヶ所也河守  
ト云モ籠ノ訓ナラン

天田内村

外宮

豊受宮ハ国常立尊也 左瓊々杵尊右天兒屋根命  
雄略天皇ノ御宇建立養老五年九月初奉宮幣  
人王三十三代推古女帝二十一丁巳年外宮遷座於  
伊勢国

宮村

内宮

天照太神自此所崇神天皇御宇遷大和国 自夫今  
ノ伊勢国高間原遷宮奉成

社領四石三斗余 神主 丹波守

奉寄進状如件

年号月日 永井信濃守尚長判

内宮社人

天岩戸

岩戸川へ生出タル石ニ天照太神ノ産湯入シ盥石  
トテ丸ク鍋ノ中ヲ見ル如ク穴有テ水溜リシ岩有  
參宮ノ者散錢洗米ヲ投入テ置雨乞ニ社人共掃除  
シテ在家ノ者笠サシテ躍レハ雨降ト也

榭

川ノ上ニ有浮石也 此谷川材木ヲ流スニ此石ニ  
不止而下ヲ潜リ流行也

鬼ヶ城

丹後丹波ノ境也 山ハ丹後田辺領也 古城ハ内  
藤備前ト南山ノ者云伝赤井悪右衛門ト一戦シ兵  
糧攻ニテ落城ト云 岩穴口ニ間廻リ程有奥程狭  
シ本堂ヨリ二十丁斗山上也

右不残本書ノ文写也 又予聞伝事左ニ記ス  
是磯田俊次ノ事也

真井

御鎮座本記ス

天孫御降臨ノ時天ノ村雲命ニ神勅有テ水ヲ持降  
リ給フ 天ノ忍石長井水ヲ琥珀ノ鉢ニ納メ持降  
リ給ヒ日向国高千穂ノ宮ノ御井ニ定メ朝夕御饌  
ノ水ニ成ル 其後丹波国真井石井ニ移シ其後伊  
勢国ニ移此水此地ニ移シテヨリ天下ノ水スメリ  
ト有 末略ス

秘伝問答云

此水有所ヲ日向ニテ藤岡山ト云 伊勢ニテモ藤  
岡山ト云 丹後ニテモ藤岡山ト云 日本ニ三ヶ  
所同ジ名有シト云

外宮

本書相殿ノ神丹後ニテハ無之事カ

秘伝問答ニ云

伊勢御遷座之時天照大神ノ教ニ依テ兒屋根命太  
玉命兩人ヲ移スト有リ 丹後ニテハ東西ノ宝殿  
ヲ前ノ社ト有此事ヲ相殿ト見タルカ

御鎮座本記ニ云

天照太神丹後国吉佐宮ニ移給フ時豊受太神降マ  
シ両宮並御座 其後豊受宮高間ヶ原ニ歸リ昇リ  
給フ于時宝鏡ヲ以テ吉佐宮ニ止給フ 雄略天皇 (ママ)  
二十一丁巳ノ年十月朔日倭姫命ノ夢ニ教給フ  
丹波国小見ノ比治ノ真井ニ御座豊受宮ヲ伊勢ニ  
遷シ奉ルヘシト見給 明年七月七日度会山田原  
ニ御遷座也

相殿神 瓊々杵尊 <天兒屋根命／天太玉命>

元来ハ内宮ノ相殿ノ神也御遷座後神勅ニテ移替  
之由伊勢ニテ秘説四座五神ト云 太神宮遷幸要  
略ニ山田原御遷座以正徳三年迄<一千百六／十九年ニ成>  
宮津領

倭姫世記ニ云

崇神天皇三十九 (ママ) 壬戌年遷幸也 丹波吉佐宮ニ四  
年ヲ積同四十三丙寅年大和国伊豆加志木宮ニ遷  
幸八年ヲ積夫ヨリ国々遷幸

遷宮要略ニ云

垂仁天皇二十六甲丑（ママ）年十月度会五十鈴川上奉遷

御鎮座

相殿神 <天手力尾命／万幡豊秋津姫命>豊受宮遷幸前ハ<児屋根命／太玉命>

両

神也

天岩戸

所ニテ云習ハシタル事カ 神代卷及伊勢ニテ久

保倉右近ニ尋ネタリシニ各別ノ事也 爰ニ略ス

金谷村 高三百八拾五石式斗式升

内拾式石九斗壹升九合五勺 万定引

拾三石御用捨高

古城 金谷小原

八幡宮

一ノ宮 鍵取 宇左衛門

屋敷ハ金谷村宮ノ支配ハ波美村ヨリ

聖権現

林泉寺 青宝山 宮津天田内村常光寺末

定免八ッ

上野村 初算所村ト云

高百式拾壹石九斗三升

内壹石壹斗五升 万定引

六石御用捨高

一ノ宮 牛頭天王 氏神

阿弥陀堂

定免七ッ八分

北有路村 高七百四拾六石五斗八升

内四拾石九斗四升六合七勺 万定引

六拾石御用捨高

十倉五社明神 氏神 鍵取 玄入

十倉五社明神

権現宮

地藏堂

観音堂

赤穂薬師

七面明神 鎮守

光明寺 恵日山 丹波福知山久昌寺末

高津江 三河 上野 千原 北有路五ヶ村ノ寺

当村平野吉左衛門ト云テ富成者住リ 酒ヲ作り毎年新米納次第百俵宛拝借仕代銀極月上納ス 平日刀脇差ノ目利ヲ好ミ腰物多所ス隠居之時刀ヲ献ス御家老中江モ一腰宛致進上候由目利違多有之由沙汰有之忪ヲ立玄ト云法師也吉左衛門ハ京都ニ隠居家督立玄へ銀三拾貫目渡シ候由後立玄身上段々衰病死 河守ハ聲ヲ取立玄子幼稚ノ内夫婦引越来相続成長ノ後譲リ河守へ帰ル

定免七ッ二分  
三河村 高百三拾六石九斗四升  
内六斗 万定引  
七石御用捨高

定免七ッ八分  
高津江村 高百四拾五石三斗四升  
内四斗 万定引  
七石御用捨高  
高吉明神 三河 高津江ノ氏神  
判官宮  
荒神

定免七ッ六分  
地頭村 高二百四拾六石五升六合  
内壺石三斗七升七合 万定引  
三拾石御用捨高  
二宮明神 <地頭村ノ大俣村半分>ノ氏神

大俣村 高百九拾六石式斗四升  
内式石 万定引  
七石御用捨高  
栃葉 <定免七ッ三分ノ高五拾六石三斗九升>  
小俣 高五拾三石五升九合  
<内四斗二升式合 万定引ノ式石御用捨高>  
滝ヶ字呂 高拾石  
内四石引残六石  
取米 六石六斗 無口米  
法隆寺 瑞雲山 <先年仏土山ノト申タル由> 桂林寺末  
三宝荒神 大俣半分ノ氏神

岡田由里村 高四百壺石六斗五升  
内七石壺斗九升四合六勺 万定引  
拾八石御用捨高  
古城 南部豊後  
枝ノ宮明神 <富室村ノ由里村ノ内半分>氏神  
桂ノ宮明神 由里村ノ内半分氏神  
定免六ッ七分  
西方寺村 高式百五拾九石三斗壺升三合  
内式石壺斗三合三勺 万定引  
六石御用捨高  
猪倉一ノ宮明神 <西方寺村ノ河原村>ノ氏神

定免七ッ五分  
河原村 <或香良ノト云> 高百式拾石三斗  
内壺石二斗 万定引  
拾三石御用捨高  
当村氏神大峯八大金剛童子社ハ下見谷村ニアリ

恵比須堂

定免八ッ六分

下漆原村 高百三拾六石三升  
内壺石壺斗三升 万定引  
四石御用捨高  
山王権現 氏神

定免十ヲ

上漆原村 高百六拾貳石五斗三升  
内壺石 万定引  
六石御用捨高

白髭明神

白髭明神

天然寺 地福山 浄土寺末 <上漆原/長谷>ノ寺  
此寺無住ノ事有シ于時見樹寺松（船カ）誉上人 伴僧  
伝秀入寺也 伝秀ハ京都ニテ廣瀬主税若党勤  
法心ヲ発シ見樹寺暁誉上人ニ仕終ニ当寺ノ住  
職トナル

定免八ッ八分

富室村 高百四拾石壺斗七升三合  
内貳石貳斗五升七勺 万定引  
四石御用捨高  
八幡宮 富室 般若寺 谷ノ氏神  
般若寺 慧光山 桂林寺末  
和尚寺四ヶ寺ノ内也  
<富室 西方寺 河原/由里 下漆原 下見谷>六ヶ寺ノ寺  
開山恵心僧都  
本尊釈迦如来  
観音縁起

丹後國中ニモ三十三所靈場ヲ定般若寺モ其一寺也  
年共観音大士ノ尊像未無之去共名監（ママ）成ヲ慕ヒ信心ノ  
男女歩ヲ運フ 爰ニ祖峯禪者此寺ニ因縁有テ行脚ノ  
序ニ暫ク掛錫ス 此寺ニ大士ノ無キヲ思嘆ス 洛西  
普門寺ノ住職為溪禪師聞之聖徳太子ノ真作ノ長一尺  
二寸ノ大士立像ヲ寄附ス 此像ハ元來寛文年中ニ洛  
陽ノ居士本然浄空ト云人仏門ニ帰依シ殊ニ円通大士  
ヲ信シ不怠一日伏見ノ里ニ往キ帰ル道ニ老法師ニ逢  
法師居士ニ向テ我観音ノ像ヲ与ヘン聖徳太子ノ刻給  
ヘル所也信拜有ヘシト 居士終ニ見ヘス怪ク思フ内  
包タル絹ヲ披ケハ尊像光明ヲ放給フ 如何成由結（緒カ）有  
テ我ニ授給フヤト云ントスルニ法師忽然ト行方不知  
居士渴仰信拜シ正敷正身ノ大士現シ給フト難有猶虚  
空ヲ再拝シ抱帰リヌ 梵檀ニ移シ拝胆スルニ何所ニ  
テ失ヒケン頂相落テ無シ 大ニ驚キ斯ル感応ニ逢シ  
ム法師ニ逢タル所ノ叢中ニ頂相有イトト貴ク急キ帰  
リ全体具足シ奉リヌ 居士ツラツラ思フニ我先ニ眼  
中ニ玉ヲ入レ補ヒ奉ラハト心中ニ密ニ思ヘリ 然トモ

大子ノ御作ナルニ凡手加シ事恐レ思ヒシ大士ハ疾ク知シ召シ頂相落給フカ是非計リ難シ 敬テ御鬮ヲ窺ントテ御鬮ヲ決シケレハ玉眼ニ為スヘキ告ヲ得タリ頓テ玉ヲ以補ヒ奉リケレハ猶如生且夕礼拝常ニ仏土往生奉願元禄三年七十二才ニテ終リヌ 居士若カリシ時ノ男子有是モ幼年ヨリ沙門ト成実元沙弥ト云彼像ヲ附属シ三年過テ彼像ヲ普門寺ニ寄附シ浄空菩提ノ為ニス住持諾シ奉事数年也 普門寺ノ本尊ハ運法カ彫刻赤梅檀ノ大悲ノ像也 又此像御坐ス事重物成ニ似タリ幸ニ般若寺ニ尊像無ケレハ猶浄空居士ノ果位増長ヲ祈シニ彼方コソ勝レント 祖峯禪者ニ投施ス禪者喜躍頂戴般若寺ニ奉リ順礼堂ノ本尊ト崇ム一方福ヲ植ルノ場トナシ侍ル

元禄十六林鐘十八日

沙門良以敬■ (ママ) 于洛西長遠禪者

定免六ツ五分

志高村 高七百五拾三石七斗六升九合  
内五拾三石九斗五升貳合六勺 万定引  
百五拾石御用捨高

古城 三上飛鳥之助 <別ニ宗宅ト有又相応ト同ノ佐武ヶ嶽掛持トモ云>

岩倉明神 村半分氏神

天神 同斷

薬師堂 渡垣山 福蓮寺 今ハ小庵

宏玄寺 東麓山 桂林寺末

定免七ツ七分

大川村 高貳百五拾八石六斗五升  
内拾壹石三斗壹升壹合六勺 万定引  
貳拾五石御用捨高

本書之文

丹後五社ノ内也 日光月光春日顯宗天皇御宇

河ニ出現三月三日野々四郎ニ負レテ九月廿八

日遷座

重盛公造嘗ト有リ

神主出雲伝来

天一大川五社大明神 <神職 高田ノ巫 与平次妻>

末社

野々宮社

日宮社

香椎宮加持宮社

荒神社幸神トモ

薬師社

稻荷社

縁記

夫人王二十三代顯宗皇帝元年乙丑 (ママ) 嘉月二十日有丹州由良湊野々四郎ト云常ニ業於釣魚 或夜至三更有一道光晝宛モ如昼見怪人乘鮭魚勸請之翌年正月廿三日達天聽勅許天一大川大明神 同九月廿八日移徒祭

礼被寄附岡田之莊旨論言掲焉

承保元年甲寅中秋 旭翁謹言

大川老民ノ伝来

当社女体神往昔鮭ノ魚ニ乗川ニ出現野々ト云人ノ背ニ負レテ山上ニ行キ于時野々ニ告給フ様戻リニ跡ヲ不可見ト示給フ 野々川端ニ至リ後ヲ見返ル忽死タリ則其所ニ社ヲ立野々宮ト号ス 明神ヲ拝セハ先野々宮ヲ可拝ト神託之由

正月廿八日

祭 三月廿三日 年ニ三度祭日

九月廿八日

玖津見日向守従五位下直寛之説大川者五行ノ神也  
左之通

豊斟淳尊 二神中殿水神也

岡象女命 //

軻遇突知命 左ノ殿火神也

木々乃智命 右ノ殿木神也

埴安命 左二ノ殿土神也

金山彦命 右二ノ殿金神也

大巳貴命 合殿

保食神 //

右五穀成就五行ノ神也

年ニ三度祭之覺

正月社参斗 三月廿二日ヨリ氏子事業ヲ止遊 廿三日野々宮ヲ御旅トシテ御輿出座神事有リ 九月廿八日氏子村々ヨリ狂言躍ヲ勤ル 氏子三河村上桑飼村ヨリ下東村西川筋ノ村々浦方白杉・青井・大君・吉田・喜多村迄村々順番ニ躍狂言ヲ掛ル 其外福井上下・上安久東ハ清道南ハ今田・十倉・城屋迄此分ハ狂言ハセサレトモ宮造営杯ノ時分役儀ヲ勤 三月廿三日ハ日尽社参皆々氏子也此宮初ハ山上ニ在シ往來之船見通シニテタ、リ有故今ノ所ニ移ス 今以大川八戸地村ノ者鮭ヲ不食川向三日市村ノ者ハ他所ニテハ食ス地ニテハ不食 八戸地村白髭明神ト云有大川之鍵取ノ神ト云伝ル由

八戸地村

当村ニ滝三ッ有三段也 入口ノ滝ヲ小滝ト云其次ヲ中ノ滝ト云奥ノ滝ヲ大滝ト云

白髭明神 氏神

薬師堂

八田村 高五百六拾五石六升

内八石壹斗五合 万定引

四拾五石御用捨高 内三拾石八戸地江

松尾明神 末社稻荷 氏神

恵比須

地藏堂

薬師堂



定免七ッ八分

丸田村 高四百三拾六石  
内貳拾石三升八合九勺 万定引  
五拾五石御用捨高

宗見寺 法林山 桂林寺末  
丸田村 八田村 八戸地村之寺

稻荷

観音

天神

八幡宮 氏神

定免七ッ六分

和江村 高貳百貳拾石八斗六升  
内六石七斗三合六勺 万定引  
貳拾石御用捨高

八王寺明神 末社祇園 稻荷 氏神

仏心寺 神護山 桂林寺末

山枡（椒カ）大夫屋敷跡

山際也 又和江村ノ前ニ小嶋川中ニ有昔ハ橋  
ヲ掛太夫カ園ナリト云 摺糠ヲ捨シスクモ塚  
有 山枡太夫竹鋸ニテ挽シトテ谷間ニ塚有  
リ

国分寺 仏国山

今ハ寺ナシ 和江村ヨリ戌亥ノ方谷ニ寺跡礎  
有毘沙門堂有津塩丸（厨子王丸カ）隠セシ寺也  
寺嶋 古城

細川家有吉四郎左衛門在城之跡也 和江村ノ  
前川中ニ有リ渡場ノ下北ノ方也 先御代堀崩  
サレシニ岩山ニテ難堀小笹生タリ下ノ方平地  
ニテ小竹藪幅二十間半長四五十間モ有ヘシ  
水東西ニ流満水ノ時此嶋ニ水滞引事遅シ 先  
御代嶋ノ中通ヲ幅五六尺掘抜被仰付洪水ノ度  
々ニ土カケ流レ不残トシテ川幅広クナリ満水  
ニ水引ヤスクタヘ少シ雉子カ床ト云 山枡  
太夫矢場トモ云以前雉子多ク居タリシ故キトス  
カ床ト云ト

石浦村 高百石

内四斗四升四合六勺 万定引  
拾石御用捨高

住吉大明神 氏神

山王権現

定免八ッ五分

由良村 高六百三拾貳石六斗三升五合  
内三拾八石三斗八升二合七勺 万定引  
拾五石御用捨高

古城 駒沢主水

由良ノ莊千軒ト云大村也<分テ云ハ村数ノ五ヶ村ノ名有>此所ニ御年  
貢所御藏建御番所右御藏秋年貢ノ節ハ御代官手代迄  
參ル 其節ハ米トテ給人一人參米掛ヲ致吟味駕籠ニ  
テ供廻リ本供当御代元禄十丁丑年川筋田辺迄運送往  
還御厭且若州廻船田辺滞留旁々以勝手宜様ニ被仰付  
中嶋次太夫奉行 汐浜大川東ニ有テ如此川有テ水流  
出ル先ヲ渡ト云

松原寺 護国山 桂林寺末 <由良ノ石浦>ノ寺  
和尚寺四ヶ寺ノ内也 元來平僧ナリ 伝精代弟子  
伝妙和尚ヲ取立本寺へ願金五拾兩差出和尚ニ成  
如意寺 由良山 鹿原山 金剛院末  
享保五庚子迄長福寺ト云 長福様<公方ノ家重公>  
御名ヲ奉憚四月廿三日如意寺ト改ム

熊野三所権現 氏神  
三宝荒神 氏神  
水無月大明神 <六月晦日祭ノ角力有> 宮守 如意寺  
観音堂 堂守 忠兵衛

稻荷  
当所権現  
薬師堂  
阿弥陀堂  
虚空蔵  
不動明王  
稻荷  
由良嶽

高山也宮山也木種無シ草山也 山上ニ虚空蔵有因  
茲虚空蔵ヶ嶽トモ云 上山ヨリ四方能見ユル宮津ハ山  
ヲ半下リ栗田上ニ差出タル所ヨリ見レハ宮津町ノ末  
ヨリ文殊切戸成相ノ景眼下ニ見甚好景也

長尾峠  
山庄大夫首挽松トテ大松四五本有 此峠難所ニテ  
座頭転ハシ鑄物師戻シトテ細キ山際小石常ニ転リテ  
甚危キ道也 安寿姫芝勧進所杯云所ヲ過峠半分過ニ  
田辺ト宮津ノ境有リ<爰ヨリ宮津城下迄ノ一里三十丁程>長尾峠ノ下ニ加  
茂季鷹ノ碑有リ  
古ヘハ梶ヲタヘタル由良ノ戸モ  
今ハヤスラニ渡ル舟人

定免五ツ二分  
神崎村<西ノ東> 高百貳拾九石八斗五升  
内四石御用捨高

永春寺 西 宝光山 桂林寺末  
大明寺 東 高麗山 桂林寺末  
湊十二社権現 氏神 鍵取 <与惣左衛門ノ孫左衛門>  
水無月大明神 六月晦日祭  
荒神  
稻荷  
立神明神  
薬師堂

穴観音

玉匣岩東西一丈五尺南北二丈三尺厚八尺海江六尺  
斗覗ク根ノ顛レタル松有リ 大サ五尺廻リ高サ四丈  
五尺末無ノ滝山ニ有リ流レ落ル所不知故ニ云

槇山 青井村ト裏表也高山也 山上ヨリ文殊成相  
切戸ノ景見ユル

定免七ッ八分

油江村 高百七拾石四斗五升

内五斗 万定引

四石御用捨高

地運寺 天久山 桂林寺末

天久大明神 末社 若宮太神宮 岩戸 愛宕

稻荷

油江宮 三十八社大明神

薬師堂

定免七ッ七分

蒲江村 高三百四拾五石九斗

内拾四石弐斗八升九合五勺 万定引

三拾五石御用捨高

弐拾五石免下御介抱

松林寺 清金山 桂林寺末

山王権現

末社 天神 弁財天 三宝荒神 祇園

当村ノ池ニ蒲多生タル故名有 又釜屋村トモ云昔三  
庄太夫塩焼シ釜屋有トモ云

先御代当村ニ御茶屋立庄屋瀬左衛門座敷ヲ廊下継  
キ西ノ方ニ八畳御縁側御納戸有御泊リ鷹野ニ被遊御  
入村之入口番所立昼時分物頭老人組ノ者召連鉄砲五  
挺為持来番所ニ荘（在カ）リ足輕不寝番勤ム  
愛宕

定免八ッ三分

水間村 高三百六拾四石八升

内四石九斗四升八合弐勺 万定引

四拾五石御用捨高

即心寺 桂林寺末

高倉八幡宮

末社 太神宮 愛宕 春日 天王

定免九ッ三分

中山村 高五拾五石八斗壹升

内九石四斗六升弐合六勺 万定引

三石御用捨高

古城 細川時代 沼田小兵衛在城

左京家臣 沼田幸兵衛ト云説モ有

妙長寺 法遠山

今ハ寺無ク屋敷斗妙法寺ノ末寺也 享保十二

年京都妙顯寺ヨリ申来山号共本山へ取上  
祥雲寺 桂林寺末  
高倉八幡宮 <八月朔日祭ノ角力有リ> 氏神  
妙見権現  
末社 稻荷 北野御前

定免六ッ九分  
下東村 高四百八拾五石五斗五升  
内貳拾七石八升八合三勺 万定引  
四拾石御用捨高  
東善寺 妙見山 桂林寺末  
妙見権現  
末社 稻荷  
社地ニ安寿姫石塔有大舟峠方北ノ道ヲ行山際  
ニ有  
山王権現 東善寺鎮守  
八幡宮  
薬師

定免七ッ六分  
上東村 高三百三拾八石八斗四升  
内二拾九石六斗貳升貳合四勺 万定引  
貳拾五石御用捨高  
藤津大明神  
末社 若宮八幡 荒神 祇園 稻荷  
観音  
弘法大師  
愛宕  
役行者 鍵取 仁八

定免七ッ六分  
三日市村 高三百三拾四石四斗  
内九石五斗六升六合四勺 万定引  
三拾五石御用捨高  
法心寺 因福山 桂林寺末 <三日市ノ大川ノ>寺  
熊野権現 氏神  
末社 八幡宮 稻荷  
愛宕  
毘沙門

定免七ッ五分  
久田美村 高五百貳拾九石九斗八升  
内拾五石八斗五升四勺 万定引  
貳拾五石御用捨高  
前方久田山ト云 先御代御鹿狩御鉄砲ニテ<猪一ノ狐一>  
御打留給人御供山ニテ陣羽織着用  
林溪寺 虎嘯山 桂林寺末  
薬師堂  
区奥山 医王寺 只今無シ屋敷斗

若一三大熊野十二社権現 氏神

定免八ッ二分

桑飼下村 高三百拾七石六斗  
内拾三石六斗貳升八合三勺 万定引  
六拾五石御用捨高

古城 一色兵部

市布施明神 氏神

三宝荒神 同村原谷 氏神

桑飼上村 高三百貳拾三石貳斗八升  
内貳拾四石八斗六升九合七勺 万定引  
貳拾五石御用捨高

古城 飯田河内

莊巖寺 慧覚山 桂林寺末 <桑飼上下ノ地頭村ノ>寺

和尚寺四ヶ寺之内 境内二十五間四方程

本尊阿弥陀

鐘楼

熊野権現 同村之内小原谷 氏神

二宮明神 同村之内宇谷 氏神

三宮明神 同村之内上村 氏神

定免六ッ七分

二ヶ村 高六百貳拾六石六斗八升  
内三拾九石四斗八升八合六勺 万定引  
貳拾五石御用捨高

古城 石子修理

十倉五社大明神 氏神

八幡宮 石子修理ヲ祭ル由 八月十五日祭

愛宕山 柴庵

天王社

弥陀堂

当村ト有路村ト年番ニテ鮭築ヲ取立之運上鮭六百  
尺銀ニテ一貫貳百目一尺ニ付貳匁ッッ 由良神崎ヨ  
リ登ル船築立候後舟道開買銀塩壹俵ッッ出シ通候由  
築未立内ヨリ時節ニ至レハ川ノ上ヘ繩ヲ引置此以来  
ハ築立候ト同断 是を恵比須繩ト云

定免八ッ二分

南有路村 高六百貳拾五石九斗  
内六石九斗九升貳合五勺 万定引  
三拾石御用捨高

古城 矢野五郎左衛門

十倉五社明神 氏神 鍵取 横屋

十倉五社明神 同村矢津谷 氏神

クルスノ森五社明神 御母神之由

権現

釈迦堂

愛宕山 柴庵

弁財天 鎮守  
長橋寺 天祥山東山寺末 二ヶ村南有路村ノ寺  
普門寺 円通寺 桂林寺末  
和尚寺四ヶ寺之内 二ヶ村 南有路村之寺  
住持方来書左之通  
本尊十一面観音  
但普門寺方拾丁余り東 矢津谷之内円通寺ト申古  
キ寺地在之 往古兵乱之時諸堂縁起宝物等不残類焼  
ノ由 境内ニ大榎残此木夜々光晃々タルヲ時ノ人打  
寄拝覽致し候処正敷円通寺本尊ノ御首榎ノ枝ニ掛ラ  
セ給フ 難有再興致シ普門寺本尊ニ致申則寺号山号  
改メ用申候  
往古余程ノ寺領モ有之候ヘトモ慶長年中御檢地之砌  
ニ御年貢地ニ相成境内斗御檢（除カ）地ニ而御座候

定免八ッ一分  
千原村 高百九石貳斗九升四合  
内五斗六升貳合四勺 万定引  
六石御用捨高  
古城 中岡右京之進  
三宝荒神 氏神 鍵取 小左衛門  
権現

定免六ッ七分  
尾頭村 高四百七石八斗六升  
内二十六石四斗貳合 万定引  
拾三石御用捨高  
古城 尾頭市正  
常楽寺 青嶺山 北有路光明寺末  
正八幡宮 氏神 鍵取 太郎右衛門  
新八幡宮  
毘沙門  
観音  
権現  
薬師

定免六ッ五分三厘  
常津村 高百六拾七石七斗二升  
内拾七石三斗九升七合 万定引  
七石御用捨高  
古城 安田大公（ママ）之進  
国一明神 氏神  
愛宕 柴庵

定免六ッ九分  
夏間村 高六拾九石四斗五升  
内壹石三斗壹升三合 万定引  
八石御用捨高  
五ノ宮 氏神

毘沙門堂

定免八ッ壺分

有田村 初 和田垣村  
高百三拾貳石八斗八升  
内四石六合六勺 万定引  
十三石御用捨高

古城 垣山相膳

五ノ宮 氏神

地藏堂

荒神

南山村 高百六拾貳石七斗壺升五合  
内貳拾石三斗九升六合 万定引  
七石御用捨高

牛頭天王 氏神

天神宮

薬師堂

弁財天

三社神

縁起無之観音院伝来書付持参写之

観音寺 室尾谷山 本寺高野山実成院

寺領十九石三斗三升

境内三千二百九十三坪 <但門前在家トモ家数ノ七軒其外山林有リ>

開基行基菩薩

人王四十三世（ママ）元明天皇和銅七甲寅年開闢

本堂 五間四面

本尊十一面観音 行基作 御丈尺余

人王四十五世（ママ）聖武天皇神龜元甲子年大和国

於宝生山彫刻但長谷寺本尊同御衣木也

脇立 不動明王 毘沙門天

弘法大師像

行基菩薩像

中興開山蓮乘上人

人王八十七世四条院御宇貞永二癸巳歳再興今

年天福ト改元

熊野権現 七尺四方

本堂西ニ有同時代從熊野山奉勸請

牛頭天王 六尺四方

本堂ヨリ谷一ッ隔今ハ光リ谷ト云 堂方四丁  
余

二王門 三間ニ二間 運慶作

惣門 二間ニ一間半

近頃大風ニテ軒傾危ニ付置置

往古十一坊在之

内 愛染坊 弥勒坊 西坊 南光坊 不動院

教王院 一老院 此七ヶ寺廢寺今四ヶ寺

教王院護摩道場在之今ハ無シ 本尊不動像

下馬札 堂ヨリ二丁今ハ無之  
安養院 八間ニ四間 <今三間ニ七ノ間> 和田垣村  
明王院 八間半ニ四間<今三間半ニノ七間半> 夏間村  
観音院 <当時ノ書付ニハノ教王院ト有ノ八間ニ四間> 常津村  
金剛院 八間ニ四間半<今三間ノ半七間> 南山村  
<四ヶ村ノノ寺>

往古十王堂 境内ニ在  
宝蔵 同 今屋敷斗  
地藏堂 同

本堂ヨリ未申ニ当リ鬼ヶ城有行程拾丁余  
鬼ノ窟 左右五尺上下七八尺程茨木童子住シ由  
不慥後内藤尾張守一類居城之由伝説不慥 赤  
井悪右衛門居城共云伝不審  
室尾谷観音寺ニ古来ヨリ神明帳有 加佐郡中七  
拾七社

正一位大川明神 正三位千滝雨引 正三位宮  
前 同田力尾 有栖 猪鞍 御陰 小嶋 正  
二位松尾 大社 志呂 笠壳 笠原 奈具  
多礼壳 津夫衣 雨引 阿具 嶋満 委文  
船度 筒 正二位上大歳(蔵カ) 布留 高田 氣比  
太祢 布施 息津嶋 物部 境 伊加利比壳  
福德 從二位葛嶋日原加佐姫 郡立 神並  
芝束 周津 三宅千滝加佐彦 波多 如意 加  
和良 丸田添 奈多 神前 介比 正四位中村  
千滝市布施 藤津 山口 劔 正四位下天蔵  
湊牧 大宇賀 青山 河辺 正五位息津嶋 市  
布施伊津岐 高鞍 ■倉(ママ) 大倉 從五位上池田  
木津 曾保谷<山ノ口> 從五位上大富(カ) 津社伊加利  
布施出雲 伊波井猪半 津嶋

鬼ヶ城之事穴ノ内ヘ入見タル人ノ直咄ヲ聞

窟ノロヨリ七八尺余奥ヘ行当リ右ノ方一尺斗高ク  
横ニ幅狭キ穴道有 身ヲ横ニシテ四尺斗奥ヘ這入幅  
五尺斗ノ所ニ至リ立テ頭モツカヘス行当リ一尺斗潜  
リ通ル程ノ穴有リ 四尺斗奥ヘ入五尺ニ左右一間半  
程ノ所ニ至リ左右ニ棚ノ如ク切レテ一段高キ所有  
高サ一尺斗程右ノ方ニ又奥ヘ入ル穴有リ入口ヲ一尺  
程宛ノ石ニテ詰テロヲ塞キ入事ナラス 其棚ノ如ク  
少シ高キ所ニ藤ノ八九寸廻リ程ノ藤瘤三ツ三方ニ並  
ヘ有人ノ住ヘキ様子ニテ無シ藤コブ枯スシテ有之近  
キ比置タル様子ニ見ユル不思儀ハ是斗ノ由 穴ノ内  
モシメラスカワキタル由

以上書付之写

小物成 継物 諸運上  
郡方取立諸運上

小物成

一 百貳拾五石七斗三升貳合	竈役米
一 三拾九石五斗三升九合	木壳役米
一 拾貳石九斗三升九合五勺	鍛冶炭代米



一 五石三斗壹升八合 塩浜年貢  
 一 壹石壹斗 灰役米  
 一 九石貳斗八升 海成米  
 一 貳拾貳石壹斗四升四合 肴 米  
 〽 貳百拾六石五升貳合五勺  
 内七石六斗八升三合成生村小物成之内御免  
 三石五斗九升三合四勺  
 岸谷村 白滝村小物成御用捨  
 残二百四石七斗七升六合一勺

繼 物

一 大豆 五百六拾六石壹升四合  
 内  
 七斗六升六合 岸谷村ニ而御用捨  
 五升七合 岡田由里村ニ而御免  
 三石壹斗四合 大山村ニ而御用捨  
 壹石壹斗貳升九合八勺 上安久村ニ而御用捨  
 一 胡麻 七拾五石四斗八升八合  
 内  
 壹斗貳合 岸谷村ニ而御用捨  
 八合 岡田由里村ニ而御免  
 四斗貳合 大山村ニ而御用捨  
 壹斗五升六勺 上安久村ニ而御用捨  
 一 麻苧 七百六拾七貫四百五拾四匁  
 内  
 壹貫四拾四匁 岸谷村ニ而御用捨  
 七拾八匁 岡田由里村ニ而御用捨  
 四貫百拾匁 大山村ニ而御用捨  
 壹貫五百四拾匁 上安久村ニ而御用捨  
 拾四貫貳百三拾匁 由良村銀納  
 一 真綿 貳拾三貫八百拾九匁  
 一 茶 拾壹貫貳百八拾九匁五分  
 一 鮫 壹石貳斗

諸運上

一 銀四貫三百六拾五匁 家運上  
 一 同百九十五匁壹分 竹皮運上  
 一 同貳百三拾三匁五分 請藪代  
 一 同四貫壹匁八分 塩浜運上  
 一 同百匁 鯉網運上  
 一 同四拾六匁 撫網運上  
 一 同三拾匁 鳴子網運上  
 一 同貳拾匁 投網運上  
 一 同壹貫貳百貳拾貳匁 鮭六百拾一尺代  
 一 同六百四拾五匁 奉書運上  
 一 同五拾匁 渋柿代  
 〽 拾貫九百九匁四分  
 内貳百拾貳匁 成生村諸運上之内御免  
 貳拾六匁三分三厘 多門院村奉書運上御免  
 六拾六匁八分貳厘 堂奥村奉書運上御免

- 貳百四拾匁壹分三厘 岸谷白滝村ニ而御用捨  
 三拾四匁五分 大山村ニ而御用捨  
 一 入木 三万六千九束  
   内 吉田村山運上 銀納ハ一束ニ付二分五厘  
 一 塩 百七拾七俵五升六合 但三斗入  
 一 端折紙 百九十三束  
   内 二束桑飼上村ニテ御免  
           二拾束 <岸谷村／白滝村>ニテ御用捨  
 一 小奉書 壹束  
 一 渋柿 拾石三斗四升  
 一 栗 千八百七拾五  
 一 山枳 百壹斤  
 一 青梅 二斗七升  
 一 煎海鼠 八拾四桁  
 一 鮭取分 <浜村／泉源寺村方>鮭不取ニ付上納無之  
 一 雉子 五百四羽  
   内六羽岸谷村 白滝村ニテ御用捨  
 一 大豆 米ニ五割増  
 一 小豆 同三割増  
 一 胡麻 枳替  
 一 麻苧 百目ニ付米一斗四合六勺六才  
 一 真綿 米三斗二升八合  
 一 茶 百目ニ付米九合一勺六才  
 一 御用船運賃 舟一艘ニ付米三升  
 一 渋柿 一斗ニ付銀壹匁五(分・脱カ)宛  
 一 梅 一斗ニ付銀三匁宛  
 一 栗 百ニ付米二升宛

郡方取立諸運上之覚

- 一 町方魚地売札 一枚ニ付銀六匁宛  
 一 町在投網札 本札一枚銀拾匁半札五匁  
 一 鍛冶炭札 一枚ニ付米壹斗二升ツヽ  
 一 町方柴札 一枚ニ付米壹斗一升ツヽ  
 一 端折紙 一束ニ付銀二匁ツヽ  
 一 高瀬船運上 一ヶ月銀二匁ツヽ  
 一 銀六百五拾八匁 由良 神崎小船運上  
 一 同七拾壹匁八厘 桶屋運上 桶屋四十九人  
   <内拾人一人ニ付銀一匁九分六厘ツヽ／三拾九人一人ニ付同壹匁三分  
 二厘ツヽ>

- 一 山枳百斤此銀八拾匁 芦田与右衛門上納  
 一 銀九十匁 石屋運上  
 一 同拾壹匁三分壹厘 七日市村小奉書一束代  
 一 漆畑請所代  
 一 漆木御払代  
 一 漆実  
 一 駄櫃銭 問屋上納  
 一 並看板 二十 紺屋上納  
 一 瓦 五百枚 <佐右衛門／忠右衛門>上納  
 一 上田一反 一石五斗或一石四斗

一 中田一反	一石四斗
一 下田一反	一石一斗
一 上畑一反	七斗
一 中畑一反	四斗
一 下畑一反	三斗
一 山畑一反	式升

田地本物

一 金子借用之方へ年限相定差出置作徳者金主江收取戻候節元金ニテ受戻

同質物

一 金子借用之方へ田地書入年限相定利息相立作合ハ手前江取請戻候節借用高元金利息共出之田畑拔売法度也

御領分高

合三万五千五百六拾九石四斗三升四合九勺

内

千八百二十八石七斗七升一合三勺 万定引

二拾四石四斗五升九合 今田村川成起引

四石 滝ヶ字呂ニ而引

百九拾六石七斗 免下并御介抱

三千四百八拾壹石 村々御用捨高

此内ヨリ御中間三百人ノ給米六百石出

六百六石九斗八升四合二勺 村々砂入引